大正四年八月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百九號

婦人衛生雜誌

第三百九號目次

稟告

來る九月の例會は本會規則に據り例年の通り休會致候也

暑中特に會員諸姉の健康を祈る

大正四年八月

私立大日本婦人衞生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら努むべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を怠らざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し向之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すにあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻さず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め閑遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事の印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を報知して申出べし爾後員數増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは諸種物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を[illegible]登錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を送付すべしと雜誌地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證[illegible]發として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割増）●第卅三條　會費東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金として振替にて口座番號東京一〇六〇〇番本會事務所宛に振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は默々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第三百九號
（大正四年八月二十日發行）

講演

齒に就て

醫學博士　島峯徹

今日は齒のお話に就て何かお話しろと云ふことでありますが、何うも自分は馴れませぬですから定めてお聞苦しいかも知れませぬが、此お話を致しまする前に一寸口腔の衛生と云ふこと……口の中の衛生と云ふことは歐羅巴竝に亞米利加では何んな風の狀態になつて居るかと云ふことを御參考までに一寸御話したいと思ひます。

元來衛生と云ふことは御承知の通り病氣にならないやうにする、病氣になつてからは醫者の領分になるのである、病氣になつた者を取扱ふと云ふことは其專門の人が取扱ひませぬと手數も要るし時間も懸り非常に臆劫であります、それであるから病氣に罹らないやうにした方が一番宜いではありませぬか、さて夫れをするにはどうしたら一番宜しいか、是が衛生と申すものゝ本分であります、口の中の病氣と云ふものも非常に澤山ありまして是も先づ早い話が齲齒などになると痛みますし、又療治にお出でになりましても却て手間が懸ります。

であるからして病氣にならないやうにしたならばそれが一番良いことではないか、それを爲るには口の中の衛生と云ふことに注意をしなければならぬ。其點から口腔の衛生を豫防すると云ふことは歐羅巴竝に亞米利加は非常に盛んになつて來て居るのであります。でそれはどう云ふ處から來ますかと言ふと御承知の通り口と云ふものは食べた物を始めて取つて咬んで唾が混つてそれから胃の中に入る消化する

一番前きの門である、此處が一番大切な門であつて此處で能く消化しないで胃の中に入ると云ふと胃が非常に御苦勞をしなければならぬのであります、それであるからして、第一番には口の中の消化を好くしなければならない、それを良くするには口の中の機械が何時も能く滿足であつて健全でなければならない、さう云ふ事からして口の中の機械を完全に始末して置くと云ふことは必要であると云ふ此處から來たのであります。

元來是は病氣から申しても遠ふの昔にこゝへ氣がつかなければならなかつたのが實はそうでなかつた、漸く近頃になつて比較的重く人の注意を拂ふやうになりましたといふのは、それは一方から言ふと齒科醫と云ふ者は昔は甚だ無學でありまして、唯齒の破損だけを修繕して居りました、即ち齒が病氣になつた時にだけ其齒を取扱ふと云ふ斯う云ふ職分を永く繼續して居つた結果、唯今申上げた口腔衞生と云ふとに氣が付かなかつたのであります、所が學理から申しますと云ふと、決してさう云ふものでないと云ふことが明かになりました、獨逸が最も此口腔の衞生に對して一番八ケましい、八ケましいから一番發達して居ります、それは今のカイゼルと云ふ方は不具者で片方の耳が聞へませぬし、手が片方は長く、片方は短かいと申します、さう云ふ不具者でございまして、御自分が不具者だと云ふことから衞生と云ふことに非常に氣の付く方でありまして、自分の國民を非常に強くして健全なる國民を造りたいと云ふことに始終考へを費されて居りました、それが本當のことでありますが學校の生徒に持つて行つて齒の注意を圖かつたならば定めし兵隊に出る人達の數が殖へるだらう、又健康の婦人が殖へるだらうと云ふことに考付かれまして、そこで小學校で以つて學校齒科衞生と云ふことを始められたのである、初のお考はそんな大した事になるでもなかつたでせうが行つて見たところが非常に結果が宜いので大變大きくなつた、今日では獨逸の小學校で以つて齒科醫なり

專門の人なりが出張して又は其目的の爲めに特に設備されたる建物で小學校の生徒並に中學校の人々の口腔を能く檢査して居ります、此事が非常に良くなりまして、佛蘭西、英吉利、亞米利加、露西亞其外總ての國が非常に注意を拂ひまして、斯う云ふことをした結果學校の子供の齒のことに就て注意したので國民が非常に恩澤を蒙むつたと云ふ此恩惠を一國の國民が占めて居ると云ふことは人道の爲でないから、是は世界列國に向つて此事を奬勵したいと云ふので、萬國口腔衛生會と云ふものが出來て瑞典の現國王自身が此會の保護者となられ、會長は獨逸のエッセンと云ふ人が會長になりました、私共も幹事の一人になりました、此會を瑞典で開かれた際にも其幹部の人達に皇帝は謁見を賜はると云ふ位に非常に奬勵せられて居る、さう云ふ工合に此口腔衛生と云ふことは文明國では必ず注意しなければならぬことになつて來たのであります、私も大日本婦人衛生會から話をしろと云ふことであつた爲に是は大變難有ことであると思つて内心では悦んで居りましたけれども、元來お饒舌りは下手でありますから再三御辭退致したのですけれども幹事岡田令夫人よりたつてのお勸めもあり且つ大變必要なことでありますから下手ながら出て少しの間饒舌つて見やうかと思つて出て參つたのであります

さう云ふ風に口腔の衛生と云ふことは非常に八ケましくなつたのである、で今日御話致す順序もありませぬから唯思付いたことを次へ／＼とお話致します、殊に今回は御婦人の會でありますから小兒の齒のことに就てお話をした方が宜いか知れんと思ひましたといふのは、御婦人は二重の御役目がある：：即ち御自分の口の中のことゝ御小供衆の口の中の事を監視しなければならぬからですけれども是は時間の猶豫がありましたならば其時に致しますが、先づそれよりも今日は一般から少し入つて行かうかと思ふのであります。

先づ最初にざおつと口腔消化と云ふことからお話し

やうと思ひますが此口腔消化と申しまするのは口の中で消化することである、口腔と云ふのは口のことであります…．口の中に食物が入ると云ふと第一番に歯が嚙みます、能く咬砕かなければならない、で此咬砕く時と同時に唾液が出て交ります、そこで普通吾々が唾と言つて居りまするのは二つの種類の違つた汁の混合物であります。即ち唾腺といふ場處から出る汁と、粘膜から出る汁と此二つのまざつたものを俗に吾々が唾液と言つて居る、彼の唾腺と申しまするのは三通りありまして耳下腺と、顎下腺と、舌下腺と斯う三通りあります、名に示す通りの場處に埋つてをります、是が本統の唾を製造し且つ出す所で、もう一つの方は先程申しましたやうに粘液と云ふものが出る、此粘液は口中到る所に泌み〳〵と出て居ります、其外に後の方の扁桃腺と云ふものがありまして、咽喉の所の兩方に斯う云ふ團子のやうなものが見えますが、此扁桃腺と云ふものも粘液を出します、そこで、もう一度くりかへすと、俗にいふておる「ツバ」といふものは唾腺から出る本統の唾液と粘膜から出る、たゞの粘液の混じたものであります、此「ツバ」が嚙砕かれた食物と交るのである、貴女方は唯食た物は歯で咬まれてそれと「ツバ」が混じつた丈で胃の中に入ると斯う思つて居らつしやるかも知れませぬが、決してさうではありませぬ、此唾が交ると同時に口の中で消化が起るのであります、即ち其消化は主として澱粉を砂糖に更へる消化であります、それで此澱粉が砂糖になるのは何がするのであるかと云ふと、前きに申した本統の唾腺から出る唾液であります、だから何度も〳〵本統の唾液唾液と申上ましたのです、然らば其本統の唾液の中の何が其働きをするかと申すと、其唾液の中に「プチアリン」といふ一種の醱酵素即ち糀の原の様なものがある、之れが其働をやるのであります、彼の米や麵麭なぞを長い間能く咬んで居らつしやると甘味が出ます、彼の甘味が即ち口の中で以つて澱粉が砂糖になつたのである、此狀態を即ち口腔消化と申し

ます。

胃といふものは以上の如き口腔消化の濟んで來た物を受取るべき性質のもので、斯樣のものを受取つて胃は自分の消化即ち胃消化が始めて完全に行はれるのであります、然るに之に反して若も口腔消化が不十分でありますると、胃は自分の職業以外にもう一つ餘計に口腔消化の不完全を補ふと云ふ役目が一つ殖へます、ところがそういふ場合に胃の方で……いや之れはまだ口腔消化が不十分だによつて僕の處へ來るにはまだ早いから、もう一度もとへ戻れつといつて之れを口へもどし再び口腔消化をさせ直ほすといふ事は人間では出來ぬ事である（牛などは別として）であるから、不完全消化を經たものが一旦胃に送られたが最後胃はどうしても人の仕事迄自分がしなくちやなりません、即ち胃が過勞を致す事になります、そこで齒で十分に嚙み砕かなかつたといふ事ばかりでなく若も口の中に汚穢ない物が遺つておつたり、腐敗したものが齲齒の穴の中より出たり、口中に病液を出す病氣があつたりして其汚物が食物と混つて胃の中に入りましたら一方に於ては能く消化れない所の物を……齒が細かにしなかつた物をそれを胃が勞働すると云ふことゝもう一つは腐つた物が混つて來たら腐つたものを胃が防がなければなりませぬ、此二つの仕事が交つて來るそれが一日や二日なら宜いけれども長い間續きまするど云ふと終には胃も此仕事に疲れてさうして怠れる、即ち胃が締りがなくなつて來る、胃が締りが無くなつて來ると云ふと胃擴張を起すといふ事にもなります、でありますから誠に口の中と云ふものは大切なものであります、それで此口腔消化が完全に行はれて居りますと胃なり腸なりと云ふものは自分の職分丈けを十分に盡すことが出來る、即ち胃は過勞をせぬ、過勞をせねば從つて腸もよくなる、胃腸が健全になれば滋養分が多く吸收せらる、齒も全身の一部分だから、豐富の滋養物を採る事になる、即ち齒が丈夫になる、病氣にならぬ、ます〳〵よく嚙む事が出來る、よく

噛めば完全口腔消化が起る、其結果は益々胃腸の負擔が輕くなる、卽ちよく消化が出來る、多く益々滋養物が吸收せられる……といふ具合に善い事が繰り返へされる、若し之れが假りに逆になるとすれば其結果はわかり易い事である、卽ち、不完全口腔消化を經たものが胃に送らる、胃は過勞する、遂には長い間にだれてしまふ、胃病や胃擴張になる、腸も從つて惡くなる、卽ちよく胃腸消化が行はれない、滋養物が多く吸收されぬ、從つて齒の榮養がわるくなる、ます〱齒が病氣になる、口の中が病氣になる、ます〱よく噛む事が出來ぬ、口の中の病氣の膿などがまぢる、ます〱口腔消化が不完全になる從つてます〱胃腸がわるくなるといふ、結果はます〱口の中がわるくなるといふ卽ち交換的の關係で始終くりかへされるのであります、一歩間違へば非常に惡るい結果になり一歩間違へば非常に好い結果になる、それであるから先づ口腔消化を起すには齒が一番必要である、其前に一寸氣の付いた事を申上げますが、例へば世の中に間違つた事があるので、齲齒を持つて居る方がありますとすると齲齒は汚穢ない物が澤山入つて居る、肉の切れや御飯の切れがはいつて始終分解をしたり醱酵したり卽ち腐敗して「バイキン」が澤山這入つておる、之れらの「バイキン」は新鮮なる食物をも直ちに腐敗させる、卽ち腐敗させる麹の原の様なものがむしばの穴の中に這入つておる、其外に比較的多く始終齒と齒莖の間から膿の出る病氣を持つておる人がある、又口の中には比較的多く結核性の病氣がある、此結核といふ「バイキン」は何處でも構はず身體の都合の好い所にはいり込む誠にいけない奴であります、肺に付けば肺結核となり又骨に付くと骨の結核となり、關節に行けば關節結核、皮膚にクッケば皮膚結核となる、それと同じやうに口の中にも結核の黴菌が付くと口の內にも結核性の爛れたやうなものが出來る、是は痛い場合もあるけれども、痛くない時があるので自分では知らんで居るけれども若し此病氣があるとする

と、結核菌は常に口中に出ておるのである、そうしますると、折角食物や牛乳を煮て食べましても、齲齒の穴の中の腐敗さす「バイキン」や、結核性の口の中の病氣のところから出る結核の「バイキン」が食物に混じ胃に送られるので、消毒は何の意味だか分からない様になります、しかし食物と共に以上の汚物が胃に入る場合は、胃液といふ恐ろしい殺菌力を有しておるものゝために「バイキン」は殺されますが、ところが以上の口の中の汚物は決して食時事のみ胃に入るにあらずして、食時外でも即ち胃液が胃中にない時でも、始終唾液とゝもに胃中にのみこまれます、尚注意すべき事は、睡眠中の時であります、睡眠中は健康の口でも醗酵分解が甚しい、況んや口内に病氣を有しておる人は非常なものである、此腐敗物を睡眠中知らず〳〵の内に飲み下すのであるから、胃はたまらない。そんなことを詳しくお話を致しますると大事な衛生のお話が出來ませぬから今は廢めまして、齒のお話を致します。

齒は何ういふ具合で生へるものかと云ふ事は大變面白いことですが、そんなことも時間が懸りますから抜きにします、それで齒は乳齒と云ふものと、永久齒と云ふものに分れて居りまして、生れたばかりの子供には齒はありませぬけれども、時として生れながらに齒の生へて居る嬰兒があります、生れ立ての孩兒で齒の生へて居つたのを私歸朝して以來二人經驗致したが西洋でも有名な人に生れながらに齒の生へて居た人があつたと云ふことであります、彼のルイ十四世……ナポレオンなぞは生れながらに齒が生へて居つたと云ふことであります、普通では生れながらには齒はありませぬ、同時に他の全消化器系統が完全の發達をしておりませぬ、ところが齒の生へるに從つて、即ち之れと平行して、口腔器關の働き、形ち、胃腸も同じく其形ちなり働が徐々に變じて來て、ドンナ食物でも差支なく消化する事の出來る様にオイ〳〵秩序がたつて來ます、即ち齒の生へる事と平行に此事が進むのです、一例を申します

と、齒の生へておらぬ赤兒の唾液の中には、前申し上げました、必要の性分たる、「プチアリン」といふものが出て參りません、神樣はよく造つておきなされます、なぜ「プチアリン」が出て來ぬかといふと、出て來る必要がない、なぜ、なぜといへば、乳飲み子は乳ばかりのんでおればよいので、飯やぱんを卽ち澱粉を食はぬでもよいのである、卽ち、澱粉を砂糖にする「プチアリン」の必要がないのである。だから齒のない子供に澱粉のはいつた菓子などたべさせる事は宜しくないといふ事がわかる、乳齒――ちゝ齒と云ふものは何うして出來るかと言ふと、それは又專門學の方でお話を致しますと長くなりますから致しませぬが一體齒と云ふものはどんな物であるかと考へて見ますと貴女方は唯齒は物を食べるとの爲にのみあると思つて居らつしやるかも知れませぬけれども決してさうではない、齒と云ふものはいろいろな役目を有つて居るもので、第一番に言語……話をする機械として齒が無くては饒舌れないのであるから、言語の機關である、それから其次には齒と云ふものは一つの飾りである、齒がなくては誠に見ともないのであります、それは御承知でもありませうけれども、西洋人の繪葉書などに能く笑つて口を開いて居るのがあるが、彼等は自分の綺麗な齒を人に見せる爲なんであつて、詰り齒は成るたけ天然の色をした卽ち白い色をして居るのが宜しいのである、齒並に口は非常に美醜に關係があります、昔は前齒に金を入れたりなにかしましたが、是は眞に見とうもないもので。近頃は前に金を入れないやうになりました、それは何故かと云ふと、天然の色と違つて居るからである、昔から「男黑かれ齒は白かれ」と言ふ諺もある通り、齒は奇麗に白く揃つておらねば夥しく顏の美を損じます、齒と云ふものは一つの五官機の役をするものである、又齒と云ふものは非常に堅いものであるから、そんなら、鈍いかといふと、決してさうでない、例へば齒と齒との間に一本の毛を入れて咬み合はさしてもなか〳〵齒は承知

しないチャンと歯は感する、ナカ〳〵以て愚かでない、非常に感が強い、彼の啞者の人が聲を聞いても聲と云ふものが解らない、其聾者に聲と云ふ感覺を與へるに歯を擦つてひゞきの感覺を與へて、それで以つてあゝ是が聲だなと云ふことを解らせると云ふ樣な役目をすると云ふ程の非常に感じの強いものであります。

是は非常に秘密でありますけれども一寸お話を致しますが、それは商賣の方で非常に大切なことでありますが、私が洋行中……伯林で聞いたことであつて……といひますのは、前の杉村全權大使御夫婦が伯林の有名なる眞珠屋から聞かれたといふ事で……眞珠の玉の眞物であるか、否かと云ふことを區別するには歯で鑑定するのが一番確である、僞の眞珠と本當の眞珠とは歯と歯の間に斯う咬合せると眞の眞珠は少しザラ〳〵する感じがするのであるが、僞せ眞珠であると滑べつこいのであります、眞物であると一つの眞珠が百圓や二百圓もするのですが、近頃は僞せの眞珠が非常に巧妙に出來て來て參りました、其僞の眞珠でもよいのは十圓や二十圓位はするそうでドンナによく見ても見たゞけでは決して解らないのであるが、そんな物でも歯で以つて試驗して見ますと直ぐ解るのである、それで一遍此感覺を覺ると必ず解るので百發百中であります、先づ斯んなやうな工合に澤山な五官機のやうな役目をするのであります、歯は又男と女と分けることが出來る、それは人間もさうですが殊に猿の如き動物の頭蓋骨であると、男だか女だか別らないけれども、犬歯（イトキリバ）を見ると男か女かゞ直ぐ解るのである、即ち男性の犬歯は大キク強く即ち男らしい感想を起す、さう云ふ工合にいろ〳〵の意味が歯にありますけれども、今此處でお話致しますのは、唯消化器としての歯と云ふ意味でお話を致します、それで歯は貴女方が御覧になるさ歯がそつくり揃つて居りさへすれば唯良いと思つて居らつしやりませうが、消化器としての歯は唯揃つたばかりではいけない咬合さして

本當に能く皆の齒が咬み合はされねばならぬのであります、ところが咬合さして見ると、タトヒ外見は揃つておるやうでも實際咬合する齒は奥齒が二本か三本かで、あとは大抵開いて居りますのがなか〱多いのであります、斯う云ふ齒は決して完全に物を咬碎くことが出來ない、さう云ふ齒は乳齒の時分永久齒と換たる時に注意したならば直るのですが、大きくなつては殘り惡いものである、今日では昔とちがひ齒科の學問が大に發達して居るからどんなことでも出來る、腭骨を擴げることもせばめる事も齒並を良くすることも惡るくする事も出來る、誠に自由自在である、これは子供の時に行つて置かぬといかぬ、それでもう一つは齲齒と云ふものはなぜ出來るか何う云ふ工合に蟲が付くかと云ふことゝ、これからして齲齒を除ける方法をお話して是でお話を結びませふ、そこで齲齒はどうしたら出來るかと云ふことをお話致しますに何處に一番齲齒があるか、何處が最も餘計齲齒に犯され易いかと申しますと此主に齲齒の出來る所は三ヶ所ある、それは齒と齒の間其處へ起るのであります、卽ち觸接面から起り易いのであります。(圖を畫く)

第二番目には奥齒の咬合面であります、其咬合面には必ず天然に皺があります、皆樣口を開いて御覽になると直ぐ見えます其皺の所からして齲齒が起り易いのである、第三番目には(圖を描く)齒が斯う云ふ風に生へて居ると「是は前齒でありますが此齒と齒莖の境へしておる所、卽ち齒莖と齒の境此處から齲齒が出來る、ソコデ何故以上の三ヶ處から主に齲齒が出來るかと云ふとそれは齒の組立を少しくお話しませぬと解りませぬが、齒は三つから成立つて居ります、(圖を描く)之れは一つの齒を眞中から割つて見たところで此處が象牙質(圖を示す)其上に琺瑯質と云ふものがあつてそれから下にあるのが白堊質と云ふものであります、斯う云ふ風に大體はなつて居ります、こんな事は皆樣御承知の事です、で此中に神經と云ふものがある、專門の方では齒髓と云ふの

ですが、普通神經と言つて居りますが、神經ばかりでない、血管も入つて居ります、何もかも入つて居ります、で琺瑯質と云ふものは御承知の通り全身中一番堅いものであるのに其堅いものがどうして是が穴が明くだらうかと云ふのが問題である、だんだんおもしろくなつて來ました、さて一番堅いと云ふのはどう云ふことであるかと云ふと石灰が一番餘計に入つて居るといふ事です、殆んど百分の九十九から石灰が此琺瑯質の中に含まれて居る、(象牙質と白堊質も勿論石灰が非常に多量に含まれてある、が琺瑯質よりは少ない、して、此石灰が多量に含まれておるといふ事は歯の堅さは之れによつて益すが、反對に此事が却て穴の明きやすい原因となるのである、世の中の事は面白いもので、よい事があれば其裏に必ず惡い事がある、なぜ石灰の多いといふ事が穴の明き易い原因をなすかといふと、それは酸即ち、すつぱい物に對しては石灰はまことにいくぢがない、即ちすぐ溶けるのであります、此理窟で彼の堅い琺瑯質に穴があくのであります、そんならば、其酸は、どうして出來るかといひますと、それは外よりはいる、即ち酸つぱいものをたべる事によりても口中に入る、又口の中で酸が醱酵の作用で出來ます、先きに申し述べました、齲歯が最も好んで出來る三ケ處の場處は一體どういふところであるかと、考へて見ますると、咬合面上の皺といひ、歯と歯の間といひ、歯と歯莖の境といひ、皆之れらの處は食物のカスがくつついひ、溜りやすい處であります、で其處へ食物のカスが溜まつて、まづ主に澱粉がたまつて永くたちますと醱酵が起ります、即ち澱粉から砂糖、砂糖から酒、酒から酢、といふ風の順序で酸が出來るのであります、酸が出來ます、其酸が食物のカスのたまつて居るところの琺瑯質を溶かします、即ち始めはごく〱小さな穴があきます、穴が明きました、さうすると、其小さな穴の中へ食物のかすが多くはいります、今度前より餘計酸が出來ます、(餘計澱粉がはいつたから)、即ち琺瑯質をまた溶かし

ます、そうすると、小さかつた穴が大きくなります其處へまた食物の「カス」が、前より多く入ります、酸が出來る、穴が大きくなる…といふ風にして、遂に大きな空虚が琺瑯質に出來ます、斯の如き作用がだん／＼進んで參りますと、琺瑯質のみならず其下にある象牙質も犯かします、象牙質には象牙質細管と申して、細かい管が無數にありまして之れ等は皆齒髓(卽ち俗にいふ神經)に通じております、たとへて見れば恰度蓮根を輪切にしたやうに孔が明いて居る、其穴が蓮根でいへば根と通じておる樣に齒でいへば神經と續いておるのですさて齲齒の進行が斯くして象牙質を犯す樣になりますと、今度は黴菌が此の象牙質細管卽ち彼の穴を通じて繁殖致します、そして、此穴をつとうてだん／＼と下の方卽ち神經の方へ進擊して參ります、こうなると、今迄は痛くなかつたのが、今度は痛みがそろ／＼始まります、彼の象牙質細管の中には黴菌のよい食物が這入つておりますから、ずん／＼奥へ／＼と進行致します、

斯う云ふ風に琺瑯質は酸の爲に溶かされ、象牙質は黴菌が入つて來て冒かされるといふ此二つの爲業が混交つてだん／＼破壞して來て遂には象牙質の屋根を破り終に齒髓に黴菌が入ります、さあそふするといたんで／＼堪へ切れぬ樣になり苦しみます、齒髓は全身の血行と直接連續しておりますから、齒髓が犯されゝば、危險になります、卽ち齒根膜炎や、骨膜炎やなど起り腫れ上り、延いては骨を犯し骨をくさらします、まあざつと、こんな風の具合で齲齒が出來るのであります、然らば何うしたら此齲齒を豫防することが出來るかと言へば、それはお話する必要はないかも知れませぬと申しますのは、以上齲齒の出來る原因をお話致しましたから、其原因が分つたならば、其原因を除去すればよいのです、卽ち第一には酸の出來るからであるから、非酸の出來ぬ樣にすればよいのです、酸は食物のカスが、前申上げた主に三ケ處に永く止まつておつて、それが醱酵によつて出來ると申しました、それであるから、其酸

の出來る原因となる、食物のカスを以上三ケ處に止めておかぬ様にすればそれでよいのです、卽ち、以上の三ケ處をよく十分に掃除するのです、齒の掃除。齒を掃除するには齒磨粉或は水を用ひて行ふのであつて楊子は何う云ふ物を用ひたら宜しいかと云ふことの問題になるのですが、此楊子は毛の餘り剛いのでもいけない又餘り柔かいのでもいけない、まあ硬いのと柔かいのとの中間が一番宜い、それで此楊子の毛の間に隙がなくてはいかぬ「楊子の形を描く」斯う云ふ風に束になつたものが少し間の離れて居るのが一番宜しい、何故間の明いて居るのが宜しいかと云ふと、磨いた時に齒の間の物が能く除れないからである、さうして又齒磨楊子の使ひ方は横に擦つたゝけではいけない、上下から行らなくてはいかぬ、それは其筈です、齒と齒の間の物を掃除するのには上下から行らなければ除れませぬからである、それから此齒を磨くと云ふことは唯齒を綺麗にするを云ふだけではないのですから見える所よりも奧の方をよく磨くやうにしなければいかぬのであります、咬合面を能く磨くのですそれから口の中の掃除は一番大切なのは夜眠る前に齒を磨いて臥ると翌朝起きた時に心持が大變良くつて食が進みます、それですから夜眠る前には必ず齒を磨く方が宜いので皆朝起きて齒を磨くと云ふ習慣になつて居りますが、寧ろ朝なんか磨かないでも宜い位で、夜寢る前に磨く方が餘程宜い、それで口を漱ぐのは餘り冷めたい水はいけない、溫るい水で含嗽をするのが宜い、で齒を磨くと同時に舌の上の汚穢ないものを能く掻除くと云ふことをせねばなりません、是は西洋人は餘り行りませぬが、日本人は比較的多く自然に行ふておる、此事は西洋人は日本人を褒めております、併し西洋人も近頃は氣が附いて參りまして行ふております。

それから其次に起るのは小楊子のことですが、御飯を食べた後の爪楊子。之れは茄子の木のものは餘り感心しませぬが一番良いのは鳥の羽根、畫ペンにし

ます物が良い、何故木の方は餘り宜しくないかと云ふと第一折れ易い彼れは齒と齒の間に挾まると長い間には濕りを含むからいけないので、そこに行くと鳥の羽根の方はさう云ふことはないので、近頃は大分使つて居ります、或は往々金の楊子などを使つて居る人もありますが、金の方は時とすると齒の金屬充塡と觸れる電氣を起して氣持が惡るいです。

先づそんなことで大槪宜からうか知らむと思ひますが普通さう云ふ工合にして先づ齒を淸潔にすることと、含嗽と云ふことが必要である、何んと云ふ人でしたか名は忘れましたが、陸軍の中將で大變長生された人がありまして、其方に貴君は大變長生で居らつしやいますが、何か普通の人と異つたことを爲さりやしませぬかと尋ねた、ところが、其方が僕は別に人並と異つたと云ふ程のことは何んにも爲ないが能く含嗽はした、朝起きた時は勿論、夜中小用に起きた時にでも必ず口を嗽いだ位の事で他は別に人と異つた生活もない樣だとお仰つたさうです、是は此事丈が長命の原因だと申上げるのではありません、まあこういふ事もあると氣がついたから申上ぐる迄の事です、西洋の諺にも「淸潔なる口は健康の入口にして不潔なる口は病の入口なり」と云ふ諺があります、兎も角口の中は淸潔に保つやうにしなければならぬ、淸潔に保つやうにするにはそれにはさつき申上げたやうに口腔衞生。口を淸潔にするし綺麗に掃除をしなければならぬと云ふのであります。

時々齒磨粉並に齒磨「クリーム」の撰擇であります之は實に大切の事であります、惡い齒磨粉や「クリーム」を用ひますと齒に大害を與へ取りかへしのつかぬ事になります、之れについてお話致したいですけれど最早時間が有りませんし又私も歸朝したばかりでまだ十分に日本の齒磨粉や「クリーム」の中でどれが一番良いかといふ事を調べて見ませんから玆で具體的にどれを御用ひなさへとは申上げられませんがいづれ機會を得て申上げるとして置きまして兎に角餘り價の安いものは宜しくない事とおもひます、之

れで今日は御免を蒙ります。

叢談

肺病と住居

醫學士 篠原昌治

人間の肺病に罹る原因は多くは他の肺病患者から傳染するものであると云ふことは現今では一般によく知られて居る事實でありますそれでは肺病には何時感染するかと申しますに從來の說では患者の吐き出した喀痰の中には澤山の肺病の黴菌が居りましてそれが乾燥して塵埃と共に空氣中に飛散して居りますから其肺病の黴菌の居る空氣を吸入すれば何時でも肺病にかゝる危險がありますし又肺病患者に接近すれば其喀痰や唾液から容易に傳染するものであると考へられて居りました、然るに近頃になりましてはそれと多少異なる考へを以て居らるゝ學者があります其說によりますれば多くの人は小兒の時に一度は肺病にかゝるものであります然し小兒の時に肺病にかゝりましてもそれは普通吾々が見る大人の肺病患者の樣に咳嗽や喀痰が出たり又は發熱しまして其を外部から觀まして直樣肺病にかゝつて居ると云ふことが分るものでもありませんし又小兒の時に肺病にかゝつたからと申しましてもそれが悉く將來肺病になるものでないばかりでなく此小兒の時代に肺病にかゝつたと云ふことは肺病に對して一定の免疫を得るものでありまして其人が將來更に肺病に罹ることに就ての豫防となるものであります、其故これは尤も大切な事でありまして此事は動物試驗によつて證明することが出來ます。

それには動物の中で尤も結核に罹り易きもの、卽ち「モルモット」に極めて弱き結核菌の少量を注射して結核に罹らせて置きますれば其動物は其後更に多量

の結核菌を注射しましても殆んど結核に罹らぬものであります然るに其と同量の結核菌を他の健康な「モルモット」に注射しますれば其動物は必ず結核になつて死亡するものであります其故一度弱い程度の結核にかゝつた動物は其爲に後に容易に結核にかゝらぬと云ふ性質即ち結核に對する免疫性を得るものであると云ふことが證明せられます。

人間が小兒の時に結核に罹りましても咳嗽も喀痰もなく熱も出ないことでありますればそれが結核に罹つたと云ふことは如何にして證明するかと申しますれば其はピルーケー氏の皮膚反應によるのであります即ち彼の「ツベルクリン」の一滴を種痘の樣に皮膚に刺しまして其部分が赤くなるか否かによつて區別するのであります此方法によつて檢査すれば人間は十四歳迄の内に必ず結核に罹るものであると云はれて居ります。

其故人間は小兒の時に輕い結核にかゝつて一定の免疫性を得るものであります然し其免疫の力が十分でなく其爲に將來結核に罹る人も澤山ありますから其を豫防する爲に小兒の時に自然的に發生する免疫の力を強める樣にしそして將來結核に罹ることを豫防しようと企てた人もあります、それには小兒の時に「ツベルクリン」を注射して置きますれば結核に對する免疫が十分に出來まして將來結核に感染することを豫防することが出來ると云ふのであります。

斯くの如く人間は小兒の時に結核に罹つて免疫性を得るものであるにも係らず將來重症の結核に罹るものがあるのは如何なる理由によるかと申すに其には種々なる原因がありますけれども第一小兒の時にかゝつた結核が特に重症であつた時に將來重き結核にかゝることが多くあります、そういふ重症の結核を小兒の時に受けるのは主として結核患者のあつた家族か又は結核患者の住んで居つた家屋に住むものに起るものであります其故以前から結核は血統を引く病氣でありまして家族の内にか又は其先祖に結核に罹つたものがあれば其子孫は結核にかゝるもの

の様に考へられて居りました。
其故小兒が將來重き結核性疾患に罹ることを豫防しようと思ひますれば先づ第一に結核患者と一處に住居せない様に致しまして又結核患者のあつた家では育てぬ様にすることが尤も大切でありますそれも住居を變更すると云ふことが出來兼ぬる事情がありますれば其住居を十分に消毒しまして若し其家の內に陰濕の室がありますれば其構造をかへて日光の射入をよくすることが必要であります、其他各室とも空氣の流通をよくして殊に寢室は空氣のよく通ふて日中太陽の光線が十分に射入する室を選ぶ様にせねばなりません。
斯くの如く致しますればたとへ凡ての結核を豫防することが出來ぬと致しましても大に結核にかゝる人の數を減少することが出來まして結核豫防上大切な事と思はれます。

牛乳を治療上に用うる意味

莊司秋次郎

牛乳は今日に於ては我邦でも可なり飲用されるやうになりましたが、到底歐米諸國のやうに普ねく一般に飲用する迄には至りませぬ、先づ養生飲と云ふ程度である。所がこの牛乳に就ては、その榮養上の價値、用法などに關して種々の思ひ違ひをして、隨分不經濟な榮養法になつたり、又少なからず害を爲した點もあるやうであります。現に今日でもなか〳〵間違つた考をして居らるゝ人が少なくない。時に小兒及び病人に對しては重大な關係のある事であります。
然し牛乳の化學的成分を調べて、これが健康人の榮養に如何に作用するか、特に小兒及び病人には如何なる關係を及ぼすかと云ふことを一々生理病理に當はめて研究するのは容易の事ではありませぬ。それで今日に於ても小兒の牛乳榮養法並に病人の牛乳飲用に就ては醫學界に於てもなかなか議論のある所でありますが、近頃獨逸のドクトルデスケと云ふ人が、「實地醫療上に於ける牛乳」と云ふ題の下

にある醫學雜誌上に論じました所は、先づ現今の醫療上に於ける牛乳の意味を略ぼ論じ盡してゐるやうに思はれますので、これを御覧になつたならば、普通の方々にも大分御参考になる點があらうと思ひまして、多少註釋を加へながら、大體茲に御紹介致すことゝ致しました。

牛乳は肉類などのやうに刺戟するものが無く、蛋白質、脂肪及び含水炭素の如き榮養分の割合が適當で且つ肉類の結締織或は植物の「セルローゼ」の如き消化し難いものゝ中に包まれてゐるのでないから、容易に胃腸の消化液と混和り消化し易い。斯様な點から牛乳は醫療上に大切なものであります。然し往々牛乳を厭がる人がある。又牛乳を飲むと下痢する人があり或は反對に秘結すると云ふ人があり、或は瓦斯が溜るとか胸がやけて噯氣が出るとか云ふ人もあります。又牛乳は消化し易いが肉類や鶏卵などよりも吸收され難いし、植物性の蛋白質に較べれば胃の内を去ることが遲い。それから蛋白質、脂肪並に含水炭素の如き榮養分は大變稀薄められた有様になつてゐて、一「リートル」の牛乳の榮養分を熱量に換算すれば六百七十熱量しか無い、それ故に牛乳だけで身體を保とうと云ふのには一日大約四「リートル」乃至六「リートル」即ち二升乃至三升も飲まなければ間に合はぬ、斯様に大量の牛乳は到底飲み切れるものではありません、故に牛乳だけでは榮養を十分にすることは出來ません。

牛乳は脱脂療法、即ち脂肪のつき過ぎて人を痩せさせる爲に用うることがあります。それには一週間の中一日か二日位牛乳、殊に脱脂乳にを一升程與へ、其他は何も食べさせない、或は靑い野菜だけを與へるのであります、そうしますと一日に數「ポンド」位體重が減ります。この方法は脂肪過多症の外、痛風とか糖尿病などにも應用して效のあることがあるそうです。畢竟牛乳だけで榮養を不足にし、飲料を節減し、尚ほ食鹽を含まぬと云ふ點が痩せる法として效能があるのであります。

脂肪心と云ふて心臓に脂肪が沈著て働が悪くなり、

水腫が來たやうな場合に、四五日間靜に牀に就かしめ、一日八百「グラム」程の牛乳を與へ、後に少量の肉と「パン」を與へる治療法がありますが、これは又肺や氣管枝の病氣で特に心臟の方も弱つてゐるやうな種々の病氣の時に應用されることがあります、又肝臟硬化症と云ふ病氣で腹水の起るときに效能があります。

昔はこれと反對に肥滿療法、卽ち肥る法としての目的で牛乳を與へた人もありましたが、牛乳だけでは榮養の不足することが分かつたものですから、今日では牛乳の外に矢張「バタ」や卵の料理、その外馬鈴薯、粥などを與へるやうになりました。

神經衰弱とか癲癇のやうな病氣に對しては牛乳は刺戟が無いから適當であります。痛風にも宜しい、然し貧血には不適當です、卽ち牛乳には貧血の治療に必要な鐵分が甚だ少ない、一「リートル」の中に僅かに一「ミリグラム」位しか含むで居りませんから牛乳の他に菠薐菜のやうな鐵を多く含むで居る青菜や肉、卵のやうなものを與へることが必要であります。

牛乳で人間の小兒を育てると云ふは全く無法な事と云はなければなりませぬが、止むを得ぬ場合には牛乳で人工榮養法を試みなければなりません。これは非常に困難な事で、色々學說の變遷もあり、現今に於ても未だ完全には行きません、從つて小兒科醫の間には種々の意見があつて尙ほ硏究の餘地がある事でありますが、兎に角單純に牛乳だけでは不充分な事は明かであります。

バウンドレル氏は第一年の小兒は體重の十分の一の牛乳を要し、三個月まではこれに米、燕麥、麥等の粘液汁と蔗糖を加へる、而して便通が多過ぎるときはソクスレツト氏滋養糖或はレフルンド氏滋養「マルトーゼ」を加へ、又便祕するときには乳糖を加へる。それから數個月の後に至れば粘液汁の代りに米粉、麥粉、燕麥粉等を二十分間煮沸した穀粉汁を用うると云ふ流儀であります。ラングスタイン及びマ

イエル兩氏による健康乳兒の人工榮養の法式を示せば次の如くであります。

生後十四日、牛乳一、水二、砂糖二乃至二〇瓦、一日量六〇乃至六〇〇瓦。

三乃至四週間　牛乳一、粘液汁二、砂糖二〇瓦、一日量八〇〇瓦。

二乃至三個月　牛乳一、粘液汁一、砂糖三〇乃至四〇瓦、一日量八〇〇乃至一〇〇〇瓦。

四、五、六個月　牛乳二、穀粉汁一、砂糖五〇、一日量一〇〇〇瓦。

七、八個月　漸次牛乳を與へ、肉羹汁及び植物性の食物を與へ、牛乳は一日一〇〇〇瓦以上は與へない。

第二年目になれば牛乳は四分の三「リートル」、第三年目には二分の一「リートル」を限度とする。これ以上與へるときは小兒は食慾が減り、便祕し、筋肉は弛緩み、皮膚は蒼白くなります。斯様な時には青菜を軟に料理して食べさせるが適當であります。我邦には餘り無いが西洋の小兒に非常に多い佝僂病と云ふものには牛乳を節減へます。

この牛乳の榮養分を增し且つ鐵分を補ひます爲には四個月目より牛乳に果實の汁を混ぜ、五乃至七個月より青菜、特に菠薐草、苣、胡蘿蔔のやうなものをよく磨砕いて料理したものを一茶匙ほどづゝ加へ、漸次その量を增して一年の終には一食匙を加へます。これはなるべく新鮮の野菜を用ひなければなりませぬが、野菜の爲に下痢を起す傾がある場合にはフリーデンタール氏の野菜末と云ふものを用ふると宜しい。

又榮養の過ぎる小兒は濕疹、殊に脂漏性の濕疹と云ふものを生じ易い。この時には牛乳を二百五十瓦に減らし、その代りとして粘液汁、穀粉汁、又既に三個月以上の小兒なれば果實の汁及び煮沸した野菜などを與へるやうにすると宜しいと云ふ人があります。斯様な小兒には牛乳の脂肪は殊に宜しくないと申します。

それから牛酪乳と云ふものを薬舗で賣て居りますが、これには純粋のものと、麥粉や砂糖を混和たものと二通りありまして、種々の消化不良のとき、又乳兒の副食物として應用せられます。

次にケルレル氏の「マルッ」汁と云ふものがありますが、これは牛乳榮養障碍で便秘する場合に效能があります。これを製しますのには、三分の一「リートル」の牛乳の中に三十瓦の麥粉を混ぜ、一方には三分の二「リートル」の溫湯に百瓦のレフルンド氏「マルッ」汁「エキス」を攪拌せ、この兩方を一と二の割合に混和て、攪拌ながら煮沸るのであります。但しこれは三個月以內の小兒では往々下痢を起すことがあります。何れにしても數週間を限りとして與へるのであります。

茲でもう一度お斷をして置きますが、これは元來實地醫家の參考に述べられたのでありますから、好い加減の自分診斷でこれを實行されては困ります。特に乳兒の榮養法は僅かの加減で甚しい誤を來しますから、必ず小兒科醫の相談を受けなければなりません。これから以下も醫療上に牛乳を用うる場合でありますから、果してその病氣であるか、又實際そうして適當な場合かどうかと云ふことは醫師でなければ誤を生じますから、只牛乳も一概に無上の榮養品と云ふべきものではない、又病氣に依て用ひて宜しい事も惡い場合もあり、用ひ方にも種々あると云ふ事だけを知つて頂けば可いのですから、その御積で御覽を願ひ度いのであります。（以下次號）

胎內の發育

醫學士　Y. N. 生

美術家の製作品には實に驚嘆に價するものが少なくない、狩野法眼の畫た虎が拔出したとか、左甚五郎の造つた人形が瞬したとか古來種々の物語がある孰れもその技神に入つたことを證する.ものであらう。又近頃の種々の動力機械や玩具などにも實に巧

妙なものが出來て居つて、その理を知らぬものには魔法か何かのやうに不思議に思はれる。斯樣な機械や玩具が出來てさへ人は不思議の思をなし、その技巧の巧妙なるを讃嘆するのであるが、こゝに人體と云ふ不思議な物がある、これは宇宙間最も巧妙に出來て居る個體であつて、神樣が作つたものゝ中で一番優等のものであると云ふ評判である。實際そう思はれるが、然し人間同志では毎日見慣れて餘り珍らしいとも、不思議な物とも思はない。今若しこゝに一疋の蛞蝓でも人工的に造れたならば、それこそ大變である、全く造化の功を奪ふたものと云ふべきであるが、實は最も單純な細胞一個すら造り得ないのである。而してこの人體の構造、生理を研究すれば研究するほど巧妙に出來て居る、美術も藝術も機械も到底比較すべきものでない。

扨てこの巧妙不思議な人體は如何にして出來るかと云ふ詮鑿は亦興味深いことである。これには未だ研究の屆かぬ點が澤山あるけれども、大體出來る筋途だけは分かつて來て居る。斯樣な事は學者だけが道樂に面白がつて研究して居れば宜さそうに思ふ人もあるが、なか〳〵そうでない、斯樣な事が分かつて來るので始めて遺傳學とか產科學とか育兒法とか直接我々に關係する大切な學問が進歩して來るので、普通の人も大體これを承知して居れば、第一に馬鹿げた又有害な種々の迷信から免れることが出來る、而して妊娠、分娩、產褥及び育兒と云ふ女の大役を完全に果す上に於ても多大の益があることゝ信ずる。それで玆に人間の身體の出來る極大體の筋途をお話して見ようと思ふのである。

極下等な生物は別として、人間では男の成分と女の成分とが一緒にならなければ人間の身體は出來ない。その男の方の成分は精絲と云ひ、女の方の成分は卵子と云ふ、これは何れも顯微鏡的のもので、肉眼では認められないから、發見されたのも餘り舊い事ではない、それで此の人間の種子が發見される前までは隨分種々の臆說や迷信があつたもので、女の

身體の内に神樣が這入つたり、亡者の靈が這入つたり、甚しきは畜生の靈などまで、這入つて妊娠したと云ふやうな話があつた、然し明かに人間の種子が分かつた以上は斯樣な魔物の爲に妊娠せしめられる理由が無い事となつた。

それから又人間の身體が出來るのには女だけの成分だけでは出來ない、又男だけの成分でも出來ない、必ず兩方の成分が合つて始めて出來ると云ふことが分かつて見れば、夫婦の間に子が無いから、妻が惡いと云ふて離緣をしたり、追出したりすることは出來ない、夫の方が惡くても子が出來ない、實際は寧ろこの後の方の場合が多い。

次に又卵が精絲に逢ふて所謂受胎卵、即ちこれから發育して一箇の人の身體となり得べき卵と成るが、この卵の發育する極最初の有樣を調べて見ると、男の方から來た成分と女の方の成分とが、同樣に働いて居ることが分かる、即ある染色法に依てこの卵を染めて顯微鏡で檢査して見ると、例へば男のはうの成分が赤で女の方の成分が青とするならば、最初この赤と青が一旦混ざつて仕舞ふが、再び赤と青とか一組づゝになつて幾つかの絲束のやうなものに分かれる時がある、斯樣にして漸次複雜な作用が營まれて發育して行く所を見れば、男の力も女の力も同等に働いて人が出來上るのであるから、昔のやうに腹は借物などと云ふ無法なことは、何うしても言へぬ譯である。況んや處女が神樣の言葉に依て自ら妊娠したなどと云ふ事は夢にも信じやうのない虚言であると云ふことが分かる。

その胎内に於ける發育の狀態も、昔は別に研究の方法がなかつたので只想像で以て種々の臆說を立てゝ居つた。例へば三四十年前の書物に出て居る懷胎十月の圖解を見ると、その月は形錫杖の如し、或は桃の花の如しと云ひ、全く小さな錫杖や桃の花が描てある。これは直き近頃の書物でもあり、先づ餘程實際に近い想像をしたものであるが、昔はまだまだ奇怪な想像を逞しうしたものである。

實際は何んな風に發育するかと云ふに、妊娠一箇月の最初の狀況は明かでない、他の動物の胎兒の狀態から想像推論するに過ぎぬ。胎生學者のヒッスと云ふ人が妊娠各月に於ける胎兒發育の狀態を記述したものを左に紹介することゝする。

○○一箇月の末には卵は鳩の卵位の大さになる。その内の胎芽は七乃至八「ミリメートル」位で、軀幹は甚しく彎曲して頭部と臀部とは殆ど接觸ついて居る。四肢は蕪のやうな形をしてゐて、腦の區分は明かになり、眼は割合に小さく、鼻の部分は橢圓形の孔になつて居る。

○○二箇月の末には卵は鷄の卵ほどの大さになり、内の胎芽は二十二乃至二十五「ミリメートル」位になり、他の動物の胎芽とは明かに區別することが出來る、そこで初めて胎兒と稱することになる。口唇、耳殼、眼瞼なども出來、四肢も大腿、下腿、足と三部分に區別され、指趾は僅かにその形を成す。外陰部も多少形跡が現はれる、肝臟が非常に大きい爲に腹部が膨隆れて居る。

○○三箇月の末には卵の大さは鵞鳥の卵ほどになり、胎兒は七乃至九「センチメートル」、二十「グラム」ほどの重量となり、臍帶は長くして下の方に附著して居る。此時には身體の形狀も殆ど成立するが、頭部の割合が非常に大きく全體の三分の一を占めて居る。四肢の指趾も明になり、爪なども生ずる。尚ほこれまで鼻腔と口腔との區別が無かつたものが、此頃から口蓋が出來て區分され、又肋骨が出來て胸部と腹部とが區別される。又男子には陰莖、女子には大陰唇を生ずるが、まだ男女孰れか紛らはしく區別判然し難い。

○○四箇月に至れば胎兒の長さは十乃至十七「センチメートル」重さは五十五乃至百「グラム」、頭部は全身の四分の一位の大さで耳目鼻口も具はり顏面の形が明瞭になるが、口はまだ非常に大きい。男女の區別も分かり、多少運動を營む。

○○五箇月になれば長さ十八乃至二十七「センチ」、重さ二百二十二乃至二百七十三「グラム」、恰も老人の如き顏貌をして居る、全身に「ウブ」毛を生じ、爪も明かに現はれ、肝臟、心臟、腎臟等も働き始め、腸の内には胎便あり、心臟の音も明かに外より聽診することが出來る。若しこの月に分娩が始まることがあれば、略ほ普通の分娩のやうに產れるものにて、胎兒が生活して居れば暫時呼吸すれども決して長く生きるものではない。

○○六箇月にては胎兒の身長二十八乃至三十四「センチ」、重量

四百三十二乃至九百五十「グラム」。然しまだ皮下組織の脂肪の沈著が充分でないから皮膚に皺がある。臍帶は腹の中央より餘程下に附著て居る。眼瞼は全く離開れるけれども未だ瞳孔膜と云ふもので塞がつて居る。眉毛や睫毛も明かに生じ、頭髪も長く太くなる。この月に産るれば呼吸し、運動もするが矢張暫時にして死亡するを免れない。

七箇月にては身長は三十五乃至三十八「センチ」、重量は八百二十乃至千百五十五「グラム」。此の時期には既に頭の骨が硬くなり、四肢も大分圓みを帶びて來るが未だ皺がある。「ウブ」毛は前額、胸部、肩胛等全身に廣がる。腸は既に餘程動くので胎便は大腸の方まで這入つて來て居る。若しこの月に生れゝば、弱いながら既に聲を出して泣く、運動も稍や烈しくするが、大抵一日で死亡するのが普通である。

八箇月になれば胎兒の身長は四十乃至四十三「センチ」、體重は千三百三十五乃至千六百十五「グラム」位になり、臍帶は大分上に昇つて腹の中央より二「センチ」位下の所に附著てゐる。顔面の「ウブ」毛は無くなり頭髪は密生し、瞳孔膜と云ふものも消失なる。爪も殆ど指の端まで來るが、まだ老人の様な狀貌をして居る。男の子では今迄腹の中に在つた睾丸が、この月になれば既に陰嚢の内に在る。此の月に生るれば育ち得ないこともないが、非常に保護することが難かしいから、從つて發育することが稀である。

九箇月には胎兒の身長は四十六乃至四十八「センチ」、體重二千百八十八乃至二千六百八十四「グラム」となり、皮下脂肪組織も十分になるから身體も圓味を帶び、赤味が減り、皺が無くなり、ウブ毛も少くなる。此時に生れゝば大抵生活し得るものであるけれども、矢張保護が困難な爲に死亡するものが少なくない。

十箇月になれば身長は四十八乃至九十「センチメートル」、體重は三千百乃至三千六百「グラム」程になり、「ウブ」毛は只肩胛の部分だけに殘り、皮膚は淡い薔薇色で滑澤で緊張て居る。手指の爪は指端を超えてゐるけれども、足の爪はまだ端まで至つて居らぬ。耳や鼻の軟骨は大分硬くなつて居るが未だ全く硬くならない。臍帶は腹部の中央に附著して居る。卽ち此月の末に至れば所謂成熟胎兒たる徵候が全く備はつて、分娩される玆に我々人間の一員となるのである。

これが人間の胎内に於ける十箇月間の發育順序の極大體である。然しこの發育狀態は兩親の健否、年齡、其他妊娠中の種々の事情に依て影響を受け種々の差

異を生じ、往々發育が途中に止むで流産したり、畸形が出來たりするのである。故に遺傳の關係や、妊娠各月に於ける母體の方の變化と併せて話せば興味があるけれども、今日はそこまでは困難であるから、只これだけで一先づ終りを告げて置くことゝする。

我等の覺悟

根津　茜菅

衛生と云へば風を引かぬやうに、お腹を毀さぬやうに、或は窒扶斯や赤痢に罹らぬやうに氣をつけること位に考へる人が多いが、これはほんの一部の衛生の事であつて、實は衛生と云ふものはまだ〳〵大きな廣い意味のものである。就中國民全體の健康を維持増進すると言ふのが此の大目的でなければならぬ。

然し特別に病弱な人でない限りは、他の人と比較して見なければ一寸健康の程度が分からぬものである。一國民の健康にしても、他の國民と比較して見ぬ限りは、孰れも自惚と云ふものがあつて、自分の國民は萬國に比類なき強健な國民のやうに思ふものである、實際そう思はぬ迄も負惜みと云ふものがあつて、弱點は棚に上げて置いて少しく取得があればそれだけを誇張するもので、小學校の兒童等にも虛僞虛飾の自惚ばかりを言ひ聞かせて居る。平時はそれでも濟むが一旦事あるに際しては、強いものは如何にしても弱いものよりは強いから、弱いものゝ負けるのは爭はれぬことである。現に目下の歐洲戰爭に於ても三個國も四個國も聯合して獨逸一個國を敵とし一寸も勝つことが出來ない、弱い者は幾何集つても弱いのである。此成績は何も不思議は無い。獨逸國民と佛蘭西人の健康狀態を比較して見れば分かる。獨逸の兵士と英國兵とを較べて見れば分かる。獨逸の國力と露西亞の國力を比較すれば分かる。武力に於て、財力に於て學力に於て確かに獨逸は他の諸敵國を凌駕して居る、然るにこの武力と云ひ財力

と云ひ學力と云ひ何れも體力が基礎である。體力の薄弱な人民が幾何集つても急に強い軍隊が出來る筈のものでない、體力の薄弱な勞働者は財を殖すことは出來ぬ、體力の薄弱な學者は成果ある研究を遂げ得るものでない。然るに世間には斯樣な見易い道理を知らぬ人がある、知つても甚だ等閑に附して居る人々が少なくない、往々教育家と稱する人々の中にさへ、兒童の體育は教育中の止むを得ざる申譯的の附屬事業なるかの如く心得て居る人がある。

今や自惚を云ふて自ら慰さめて居るべき時世ではない、吾々は他の國民と比較して如何なる地位に在るかと云ふことを明かにし、その足らざる所は國民擧つてこれを充足し、一歩づゝ彼を凌駕して居るやうでなければ、實に危殆の狀態にあるものと謂はなければならぬ。獨逸では過般靑島陷落後非常に興奮して、今後日本人には獨逸の國土を蹈ましむべからずとか、再び獨逸の教育の恩惠に浴せしむることを許さぬなど〻云ふて居る。目下の事情は如何にもあれ露西亞では、日露戰爭後は子供が少し意氣地のないことをしたり、泣いたりすると『それだから日本人などに負ける』と云ふのが親の口癖となつて居つた。『記憶せよ奉天の敗、日本海の水煙』とは露國民の箴銘であつて、決して忘れる所ではない。吾等は兎も角もこの兩國民だけの武力、財力、學力は備へて居なければならぬ、而して今現に如何であるか、眞面目に比較考量しなければならぬ、然るに遺憾ながら何れの點に於ても、吾等は彼等に優つて居るとは言ひ難い、否甚しく劣つて居ることを白狀しなければならぬ。是に於てか吾等は全心全力を盡して之を充足することが必要であるが、これには前述の如く國民の體力を充實せしめ、特に剛健なる賴もしい次代の國民を造ると云ふことが急務中の急務である。これには國民一般に衞生の智識が普及され、國家の爲にこれを應用實行することが必要である。この點に至ては婦人の力に俟つ事甚大なるものがある、我が婦人衞生會の如きはこの點からして益々重大の意

義を有するもので、その趣旨目的の貫徹に全力を注がなければならぬ事と思ふ。聞く所に依れば同會の如き全く營利を離れ、偏へに國民の健康を祈るが爲に、一般婦人に合理的の衛生上の智識を普及せんとする眞摯なる最も貴ぶべき目的を以て居る神聖にして有益なる會が甚だ振はず、却て二十年前よりも眞面目な元氣が衰へたかの傾があると云ふのは、實に慨かはしいことで、我邦の婦人は未だ眞實に世界の大勢を知らず、國民の元氣と衛生との關係を解せず、種々の迷信に捕はれ、不健全な文學や藝術に弄ばれて居るものが多いのではあるまいかと思はれる。果して然らば今回の歐洲戰爭に由て覺醒せられ、大に學ぶ所あつて多少なりとも進んで國民の健全の爲に盡せんとする眞面目の心に立歸らんことを希望して已まぬのである。

育兒

少年衛生訓

ワイグル述
莊司秋次郎譯

獨逸のドクトルワイグルと云ふ人が獨逸國の少年の爲に書いた衛生訓があります。簡單ながら「清潔」・「練習」・「節制」・「保養」等の章に別つて、面と向つて小兒に言ひ聞かすやうに書いてあります。無論兒童に讀ます積でありませうが、母親が讀んでも宜しいと思ひますから、試みに譯すことゝ致しました。序文には斯う書いてあります……。

吾が少年に一言

是の本は汝の本である。私は我が國民の將來を考へて、閑靜な時に汝の爲に書いたのである。

此本は汝の忠實な友となり、又相談相手となるに違ひない。之を取て讀み其の原則に從つて行ふやうにしなければならぬ。そうすればお前は身體も精神も強くなるであらう。世中の競爭に於ても到る處で勝利者となるに相違ない。汝自身には幸福となり、我が國民には誇となり、我が愛する祖國には將來豐かなる發展の爲となるやうに。

一　清潔

清潔といふのは我々の身體、衣服、住居その他凡て周圍を清淨にして置く事である。

清潔は我々の健康を保つ爲には缺くべからざる基礎である。清潔と云ふことがなければ、決して眞に何時までも續いて丈夫な譯にはいかぬものである。不潔は健康の敵である。不潔は健康の爲に種々の危險を蔽して居るもので、總ての毒蟲は不潔の中が大好きである。その中には又彼の危險な黴菌、その他只眼では見ることが出來ないけれども重い病氣を起す所の小さい細菌が都合の好い住處としてゐる、例へば膿を造る黴菌、瘰癧、咽喉や眼や耳の焮衝を起す黴菌、丹毒だとか、性質の惡い發疹を起す黴菌、又破傷風、實扶的里、結核などを起す黴菌も皆、不潔な所を住處としてゐるのである。

皮膚の損傷は——小さくとも大きくとも——損傷そのものは別に危險でない。若しその創傷が清淨に洗はれ、清淨に繃帶されるならば、化膿こともなく、すらりと治癒るものである。然し若し汝が洗ひもしない不潔な手指で觸つたり、不潔な繃帶などに由て不潔物を創の內に入れるならば、血液中毒などが起つても、それは自分の罪である。

尙ほ氣をつくべき事は、不潔な人間は、歩くにも立つてゐるにも、到る處に胸が惡くなるやうな臭氣を瀰ぎらすもので、清潔な人には嫌はれる。出來るならば人は斯樣な人間を避ける。これは不潔に對する全く自然の嫌惡の結果である。

それ故に清潔の衞生は、凡て自分の健康を欲する行儀の正い人には大切な事である。

汝はもう小さい時分から、それに慣習るやうにしなければならぬ。特に身體を何處から何處まで清潔に保つやうに慣れなければならぬ。幼にして習ひ、老て成ると云ふものである。

（一）汝の皮膚を清潔に保て

皮膚は身體の外側の防御をなす被蓋である。皮膚は皮脂の分泌及び汗に由り、空氣中の塵埃及び襯衣や衣服の極細かい擦切れた屑の沈著、又種々の物に觸はることに由て絶えず汚れるもので、皮膚の上には不潔物の粘々する汚垢が出來るものである。

この汚垢は殊に皮膚に必要な發散を妨げるものであるが、又皮膚を刺戟して、皮膚が萎て病氣になる。

それで故に汝は屢々且つ根本的に皮膚を潔めなければならぬ。それには如何するか。お湯と石鹼で皮膚を洗ふのである。これには溫い風呂浴或は灌水浴をするのが一番宜しい。

湯の溫度は大約攝氏の三十五度、卽ち列氏の二十八度とする。健康な時には何時も攝氏の三十七度内外になつて居る我々溫血體には、これが最も快い溫度である。この溫度の水ならば十五分か、もつと長く身體に作用かしても感冒を引く心配はない。この微溫水に由て固り著いた汚垢が浸軟ける。

註。我々日本人は熱湯浴をする習慣があつて、幼兒の時分から少なくとも攝氏の四十度或はそれ以上の熱浴をして來て居るから、三十五度位の湯では溫浴のやうな氣がしない、直ぐ風を引くと云ふて恐れる位のものである。實際經驗上毎日熱浴をしても別に害を認めぬやうであるが、理窟上良いとは言ひかねる、矢張普通は體溫に近い溫度の方が適當な譯である。

それから石鹼で垢を溶かせば垢は皮膚の總ての凹みや皺の所より容易に洗ひ去られる。それ故に能く石鹼を塗るのは是非必要なことである。

石鹼無しに沐浴したのでは半分しか效能がない——石鹼を拭ひた後で、もう一度清潔な微溫湯で皮膚全體を洗ひ流す。少しも石鹼を皮膚に殘してはならぬこれが殘ると瘙痒くなつたりするものである。

斯様に沐浴をすれば皮膚は何處から何處まで清爽して新しい元氣が起り、盛に發散し、血液は元氣好く細い血管の内までも廻り、細かい皮膚の神經は復び總ての刺戟を能く感ずるやうになる、これで以て全身に新たなる好い心持が瀰ぎるものである。

勿論斯様に新たに洗はれた皮膚は空氣に對しても能く感ずるやうになる、それで輕卒に新鮮な空氣に曝しては不可ない感冒に罹る虞がある。

それ故に冷い氣溫に移る仕度をする。卽ち湯から上つて戸外或は浴場よりも冷い室に行かうとするときには、微溫湯で皮膚を洗つた後で冷水の霧にかゝるが宜しい、その水の溫度は大約攝氏の二十五度乃至二十度が適當である。若し灌漑裝置の設備があればそれを利用する、そうでなければ大きな浴用海綿に一杯水を含まして、それを胸の上又肩の上に壓つければ、水は全體に流れかゝる。

家で晩に溫浴をして、その後直ぐ牀に就くものはこの冷水灌漑をする必要はない、寢牀の溫みで感冒が防がれる。斯様に一日の終をつければ善く眠られるものである。

何時でも沐浴をした後では氣をつけて拭乾かさなければならぬ、これは決して忽諸にしてはならぬ、充分注意して全身を拭乾かし、少しの皺の所でも拭殘さぬやうにしなければならぬ。

一週幾度溫浴すべきかと云ふに、その答は甚簡單である。先づ汝の出來るだけと云ふのであるが、然し少なくとも一週間に一度は湯に入らなければならぬ。日曜日は安息日として誰にでも適當であらう。それでこれを一週間の溫浴日とするが宜しからうと思ふが、餘り溫浴を儉約してはいかぬ。

註。この溫浴を簡便にし得る點に於ては我邦の習慣は誠に宜しい、夏は勿論毎日少なくとも行水を使ふが、冬でも一週間に二三度は溫浴する、人に依ては毎日湯に入らねば何しても氣の濟まぬ人もある。只無闇に熱浴をして溫度に構はず、浴後の注意も甚だ粗漏であるが、これは氣をつくべきことである。

學校に通ふ間は、毎週の學校浴の機會を怠らず利用せよ。無駄話をして只遊んでは可かぬ。私は學校に

行つて、「この級の兒童は皆溫浴を致します」と云ふことを聞くと何時も悅ばしく思ふが、これは誠に結構な事で、是非さうなければならぬ。

註。獨逸の小學校では學校に浴場を設けて、屢〻兒童に溫浴をさせ、又晝食の世話をする所もあれば、小さな子供の間食までも成るべく安くて消化し易く滋養分に富むだ適當な物を供給する所などもある。これは實に羨ましい事である、何うか我邦の小學校でも浴場を設け、せめて晝の辨當などは譯の分かつた熱心な校醫が相談して、世話をして與れるやうに致し度いものである。

斯うして汝は自分で清潔な衛生的の習慣をつける。每週學校で溫浴をする習慣がつけば、後で學校を出てからもこれを缺くことが出來ないやうになる。これは汝の一生涯に取つて結構な事である。塵埃や不潔物を生ずるやうな職業に從事する人は每日溫浴しなければならぬ。仕事の濟むだ後で晩に十五分か二十分間灌水浴をするのは何でもないことである。一回の灌水浴料十「ペンニヒ」位の費用は大した事ではない、（一「ペンニヒ」は我國の二厘五毛程に當る）。麥酒を一杯控へれば裕に浴料は浮ぶ、而かもこれで以て身體の爲になることは大したものである。

註。獨逸では麥酒が良くて、安くて、女でも子供でも常にこれを飲むけれども、これも多少「アルコール」を含むでゐるから、澤山飲めば害が有ると云ふので、近頃は子供には飲ませぬ方針になつて來て居る。

勿論今日でも溫浴の出來ない處は澤山ある。その時には溫湯で身體を洗拭いて間に合はせなければならぬが、これも充分暖い室內で行はなぬと感冒を引くから氣をつけなければならぬ。

（以下次號）

兒童の食物

（兒童研究第十八卷第一二號）

これは日本兒童學會第十回總會に於ける宿題「兒童の食物」に就て唐澤博士と宮本仲先生の報告された概要であります。

一　小兒の食物に就て

醫學博士　唐澤光德

唐澤博士は離乳期より滿二年以上に亙る小兒に適當なる食物に就き表示し、次で賣品としてある菓子につき批評を加へ多數の賣物を示し且つ會員をして試食せしめつゝ講述せられたり。

一。離乳期の食物及び其與へ方。

離乳期の食物と其與へ方は西洋にも日本にも一定の方法なし、只醫家は大體の方針の下に任意に行ふのみ。離乳期は西洋にては生後六七ヶ月よりなれど日本にては八九ヶ月より始むる方可ならん。而して其離乳方法は一言以て掩へば漸進主義をとるなり、始めはおも湯、漸次に卵黄を加ふと云ふ順序なり、食餌回數は獨墺の例をとり一日五回にして其時間は六時十時二時午後六時十時とする方一般の習慣なり。稍ゝ長じては第一朝食と第二朝食とを設け、次で晝食、おやつ、晩食の五回とすべし學齡の頃よりは一日三四回にて十分なり。

おも湯は始めは薄きものを用ふべし。其分量は確言出來ざれど一年位の小兒に普通の粥を一回に百瓦を與ふれば下痢を起こすだけは確實なり。ほうれん草は消化し易く且つ鐵分を多量に含むところの佳良なる食物なれどこれの無き時期には小松菜を以て代用すべし。共に始めは磨りて用ふ。「オートミール」は早くより與ふれば下痢を起こす故二年頃より始むべし。

以上を前提として小兒の食物としての賣品なる菓子につき批評を加へんとす。西洋菓子の原料は砂糖、牛乳、卵、牛酪の四を主なるものとせる故二年以上の小兒には與ふるも害なし日本の品にては主として甘きのみ即ち砂糖のみ。滿一年迄の小兒にはかる燒、風船飴の如し。されど此年齡にては小兒は鹽分を欲する故却て鹽煎餅を好むものあり故に予はかる燒に醬油を附けたる菓子を作らしめし事あり。「ビスケット」は「メリケン」粉砂糖牛酪にて製す。されどこれ

には上等と下等と其差甚しきもの故小兒に與ふるには大に注意せざるべからず。安價なるは消化不良などを起こす。一ケ年以上となれば歯を生ずる故「サブレー」などゝ名づくる菓子をよしとす、砂糖は子供には大人の思ふ程害無きが如し。衞生「ボーロ」の中には有害なるものあり。水飴は良き食物なれど灰分多く又下痢を起こす事あり。之を西洋の「マルツエキス」と同様に思ふは誤なり。醱酵素も劣り消化も不良なり。故に小兒が腸胃を害せる場合には用ゐざるを可とす。

滿二ケ年以上となれば「ミルクキヤラメル」を與ふるもよけれど元來砂糖「ミルク」「チヨコレート」「バター」より成るべき材料が不良の品を用ゐ易きを以てあまり信用出來ず其惡臭を放つものを往々見るあり。滿二年以下には勿論禁物なり、「マシマロー」、「バナナ」共に下痢を起こしやすく。「ゼラチン」も使用量多きに過ぐ。色素の惡しきを使用するために尿を着色する事あり。衞生飴と稱する品も二年以上ならでは食に堪へず。「チヨコレートクリーム」は刺戟性なり睡眠不足を來すの害あり。煎餅に南京豆の入れるがあり。四歳以上とならざれば與へ能はず。

予はほうれん草入の菓子を試作し以て世の批評を乞はんとし、富士川博士また海産物入（沃度等を含ましむるために）の菓子を製せられたり。如何なる品を菓子に加ふべきか殊に諸君の意見を洩らされたし。

菓子に對する以上の批評を總括すれば

一、菓子の名が六ケ敷くして記憶し惡き事
二、砂糖を多く加へ過ぎる事
三、菓子の製造は日本菓子は大に劣れる事
四、不消化の部分あり、色素にも注意を要す
五、水飴を精製し、小兒に適當なる食物（ほうれん草の如き）を加へたる菓子を作りたし

二　兒童用菓子に就て

宮本　仲

宿題の一部として兒童用の菓子に就き述ぶべし。さ

て許多の駄菓子を示されつゝ懇々と說かれたり。小兒の食慾の盛なるは大人と異り生活を保持するの分量以上に發育するを要するが故なり。抑も駄菓子はすべて「おやつ」(間食)と認むべきものにして「おやつ」には子供自身の取るものと保護者より與ふるものとの二種あるべし。前者は分量も性質も子供の隨意故害あるを以て後者の方を選ばざるべからず。駄菓子の製法は砂糖は砂糖俵の菰を拂ひ又其俵の菰に水を掛け其れを煮詰めなどしてこれに種々下等なる材料を加へて菓子とするなり。されど一度はこれ等のものを悉く煮る故黴菌學的には此時には不潔ならずされど其後の取扱方法はたしかに不潔且つ危險なり。干菓子は原料をもち米、うるし米より獲それをふかし蒸し煎りなどして之にみじん粉麥粉、薩摩芋、大豆、小豆、南京豆、胡麻、けしなどを加へしもの又は砂糖蜜、油などにていりしものなり。餅菓子に就きては茲には略す。干菓子を區別すれば

一、おこし、粟おこし、さんしやうおこし、ねじ物(惡砂糖蜜で捏りしもの)たんきり、みじん棒等之に屬す。二、粉物類、煎餅、鹽煎餅、かきもち、ぱんなどこれに屬す。三、打物、四、懸物、源治豆、金米糖、石ごろも。五、捏羊羹。六、飴類、砂糖類、たんきり、牛皮翁飴きんかとうの類是れなり。七、玩具趣味の菓子。八、上菓子、駄菓子よりも稍ゝ上等なりとの意味。

以上の種類に屬する菓子數十種の名稱を擧げ之に實物を添へて供覽されたり。

駄菓子はすべて消化惡し。最も注意すべきは之を店頭の硝子函中に置き蠅の止まるに任かす事なり傳染病の危險あるを以てなり。黴菌學上には煮たる時までは不潔ならずと雖、不潔なる器具の上にて取扱ひ塵埃を蒙むり又蠅等の昆蟲の止まるも何の妨ぐるもの無き故危險甚し。故に醫家たるものは勿論、敎育に關係するものは直接子供に對し、又保證人會等の場合に於ては駄菓子に就きては消化の良否より

も不潔といふ事、分量の事を注意されん事を望む。

太郎の生立（承前）

ドクトル 三田谷 啓

第五個月

太郎のからだに冷かな水をかけると太郎は面白そうに笑つた、併し目に水をかけると太郎は直ちに目を閉ぢて顔をそむけた、これが丁度百二十九日目の事で百三十五日にも同じ事實を見た、百二十六日目に町につれて出ると非常に不思議そうに見てゐた、併し太郎は直ちにすやすやと眠りに入つた、其様はあだかも勞れて眠つた如く見えた、太郎は周圍の人をますます明かに知るやうになつた。殊に太郎の兩親を確り知るやうになつた。丁度百三十五日目に太郎の母は二迷突離れた所に居たが、太郎は之れを知つてゐた。太郎は母を見ると活潑に笑つて而して嬉しそうな顔をした。百四十五日目に太郎の母が敷居をまたげる音を聞いて耳をそばだてた。

太郎は併しながらたゞ之れを知るばかりでは滿足せず、感じ且つ觸れて見たいと思つた。太郎の父に於てこの事を試みた。百四十五日目の晩に太郎はソーファの上に横たはり、父は太郎の前にかゞんでゐた。すると父の鼻と口と耳とを掴むでそして聲高らかに笑つた。其後二三日にして太郎は母の顔を同じように觸れた。百四十八日目にも同じ事を繰返した此時に太郎は著しく嬉こんでゐた。又太郎は牛乳瓶を喜んでつかんだ、（百三十三日）。太郎の手は大變動きやすくなり、曲げやすくなつた。乳をのんで居る時すら太郎の手は動いてゐた。たゞ太郎が眠ると二つの手はコブシを作つて靜かに保たれてゐた。頭もまたますく上手に動かすようになつた。乳を呑んでゐる時に頭を上げて笑つてそして何か話したがるような趣をした。太郎が乳を呑む爲めに用意をしてねさゝれると手足を不規則に動かした。足は常

に高く上げてゐた。父が太郎の足をおさへると太郎は笑つてそして兩足を高く上げるのであつた。百三十一日目に太郎は體を高く上げようと試みた。即ち足と頭を上げて丁度橋の樣な形を作つた、其翌日に太郎が腹ばいに成つてゐる時も頭を上げて兩方の手をついて口を開けながら周圍を見てゐた。

百三十六日目に初めて自分で足をにぎりそれを顏の方向に持つてゆかうとした。太郎はまた四肢を動かして體操の眞似をさせてもらつて大によろこんでゐた。

以上の如き運動が太郎の爲に心持ちのよかつたと云ふ事を認めた場合にはまた之れを他の方面より證明する事が出來る。即ち太郎は規則正しい眠りをする事が出來た。太郎の泣く事は今は既にまれとなつた太郎が眠つた時は恰んど常に手を頭の上にのせてゐた。太郎の起きてゐる時には太郎の發育に相當して何かしようとしてゐた。うち見たる所太郎はいつでも何かしやうと思ひ、且つ見たり、聞いたり、また遊ばうと思ふやうであつた。併し太郎の對手になつたり、又太郎に何かさせやうと言ふ考で何人も手を出さなかつた。それでも太郎の周圍には太郎の注意力を惹くやうなものは少からずあつた。お母さんは音樂を奏し太郎の姉共は降誕祭の歌を謳つた。太郎は笑つてそして口をあけながらそれを聞いて居た。降誕祭の第一日に丁度太郎が生後百四十四日目になる。降誕祭樹の周圍でさわぐ爲め太郎は多少不安のやうであつたが間もなく馴れて種々の物質や又其樹木の上に飾られた燭光なども靜かに見るやうになつた。太郎は姉共が樂んで遊び戲れて居るのを靜に見て居た。

丁度百四十六日目に高い音と低い音との變換に對して驚いて注意して居た。腹が減つて泣いて居た時に(百五十一日目)太郎の好きな歌を父がうたつた。此時に太郎の顏の表情は喜悲交々相混じたものであつた。

百四十八日目に太郎の父が太郎の腕の下をコスグル

と太郎は大きな聲で笑つた。しかし百三十日目に蠅が太郎の頭に幾度となく飛んで來た時に太郎は平氣で居た。百五十二日目には太郎の姉の持つて居る人形を見せると大に喜んで笑つた。それから太郎の言語の發達に就て述べると太郎は百二十七日目に太郎は乳を呑んで居るときに笑つた。そして何か言はんと試みた。其發音はルー、レーと聞え、其翌日はルー、リーと言つた。百二十九日目にエゲー、ギー、ゲー、ゲー、リーなど〻發音した。百三十二日目にはグル、グル、グルと言つて居た。

太郎の父が或晩に太郎の傍で讀みものをして居たときに太郎は目さめて籠の中に居た。太郎は始終何か言つて父の讀書をさまたげ且時々大に笑つた。太郎の父が讀書をやめると太郎もまた發音をやめた。時時笑つてそして何か話して居た。これが百三十七日目のことである。

丁度百四十三日目にラーラーラーラー言ひ乍ら指を口の中へ持つて行つた。其發音はアル、ア、エア、オオオオ、ハアアー、ルル、アなどであつた。百四十七日目に太郎は盛に話をした。其音はハー、ラー、アラー、エグル、グラ、エレー、エレー等であつた其後三日にして大きな聲でヘー、ヘー、ヘーと言つて、ピアーノの鳴つた後に笑つた。

（以下次號）

家庭衛生

便祕の治療法

種々の病氣に由て便祕を來しますが、別に病氣と云ふ程のこともなく所謂常習性の便祕と云ふて、兎角通じが惡くて困る人があります。これは特に御婦人方に多い、而して斯樣な方はこれが爲に頭が重かつたり、眩暈がしたり、鼻血が出たり、逆上せるとか足や腰が冷えるとか、歯が浮き歯齦が腫れ、胸が塞へるとか種々の病狀を訴へるものであります。

斯樣な常習性の便秘と云ふものは一時下劑を用ひましても、直ちに又便秘し或は却て甚しくなるやうなことも御座います。それで便秘に苦しまるゝ方は成るべく下劑を用ひずに通じを緩める工夫をなさらなければなりません。

運動の不足が便秘の原因と思はれる事もありますから、家に坐はつてばかり居られる人ならば先づ散歩をなさるなり、何なりと身體を使ふ仕事をなさるが宜しい。

肉類又は消化し易い物などばかり選むで食べる所謂贅澤な方であれば宜敷野菜類を多くし、不消化物も多少召上るが宜しい、人間の消化器も多少不消化物が必要なやうであります。果物なども便通を良くします。

それから藥としては毎朝食前二三十分前に茶飲茶碗で冷水一杯を服用すると丁度通じの具合が好くなることがあります、水に少し食鹽を加へれば尚ほ良いやうであります。

朝起きる前に牀の中で二十分間ほど兩手でお腹を按摩して效のあることがあります。

厠に行く時刻を定め、徐ろに排便するやうにし、縦令便通がなくとも其の時刻には必ず行くことゝして置きますと習慣で多少の便通が ある もので あります。

餘り頑固な場合には灌腸を致します、これは普通の「スポイド」でも灌腸器でも「イルリガートル」でも何でも宜敷しい、少し習れますと容易に自分で出來ます。灌腸藥としては石鹼水が一番宜しう御座います。硬い便を溶かしますのには「グリセリン」を用ひますけれども、人に依ては大變お腹の痛む人も御座います、勿論害はありません。只痔其他肛門や直腸に病氣のある場合には無論氣をつけなければなりません。

次には何うしても下劑を應用しなければならぬ事もあります。下劑には非常に澤山の種類がありまして各その作用が異なつて居りますから、或人には能く

利く下劑も他の人には效のないこともあり、同じ人でも或時は適當であるが他の時には不適當なこともあります。それから下劑の中には峻下劑と申しまして作用の烈しいものがあり、用ひ方が惡いと中毒を起したり、特に御婦人には月經に影響し、妊娠して居られる時などには危險を來すやうな藥もありますから、妄に下劑を用うる譯には參りません然し常習便祕のある人は「カルルス」泉鹽、又は硫酸「マグ子シウム」卽ち瀉利鹽などを用ひて差支ありません。「カルルス」泉鹽には天然のものと人工のものと兩種あります、天然「カルルス」泉鹽は値段は少し高いが飮易い、尤も天然「カルルス」泉鹽と稱しても、舶來の人工「カルルス」泉鹽が大部分だそうであります。これは朝飯の三十分か一時間も前に五瓦から十瓦乃至十五瓦も湯に溶かして一度に飮み、少し運動をすると能く利きます。硫酸「マグ子シウム」も矢張同じ位の分量を同様に用ひます、何ちらも危險は無い良い下劑ですが、續けて用ひますと段々利きが惡くなつて少しづゝ分量を増さなければなりません。もう一つ屢々用ひらるゝ無害の下劑は「リチ子」油卽ち蓖麻子油であります。これは大抵の場合に殆ど間違なく利きまして誠に良い下劑ですが、油で味が惡いので困ります。それで毎日飮むには不適當ですが、餘り通じの惡い時には一回に十五瓦か二十瓦も飮みますと能く利きます。薄荷油を一滴落しますと幾らか飮み好いやうですが、なか〱味が惡いものです。麥酒或は蜜柑の汁、又は苦い冷たいお茶に蓖麻子油を滴して口の周圍に著けないやうにグツと一度に嚥下す、而して後で鹽煎餅のやうなものを嚙むと餘程好い。尙ほ紙を舌の奥の方まで貼して置いて一息に蓖麻子油を飮込み直ぐ紙を取除けば餘り不快を覺えぬと申します。

日射病

毎年のことでありますが、夏になると軍隊では演習

中に日射病で兵士が死亡したと云ふ噂を聞きます、今年も既に所々の聯隊で日射病に罹つた兵士があるやうであります。これは何うして起るかと申しますと、戸外の炎天に曝らされて劇しい運動をし、汗が出て、それを補ふに必要だけの水分を攝取することの出來ない時に起るのであります、それですから決して兵隊さんに限つたものではありません、誰でも罹り得るものである、只兵隊さんは兎角日射病を起し易い條件の下にあるのであります。即ち幾ら暑い時でも襦袢、袴下は勿論上服の釦も容易にはづすことは出來ません。それに靴下、靴、脚絆をつけ、白色の日覆はするもの丶羅紗の帽子を被つて居ります。これに劍、彈藥盒、背囊を著け、銃を携へて、猛烈な活動をやるのであります。行軍をする時には燒けた土煙を侵して何でもかでも豫定の行程だけは行く。斯う云ふ場合には大抵二列にして釦なども隨意にはづさして行軍は致しますが、四列になつて行軍する時には、その中の列に居るものは非常に苦しいものであります。さて演習となると樹陰一つのない野外に於て『駈足――』、『散れ――』、『前へ――』、『突込め――』で以て、二三千「メートル」位の距離を炎天の下に汗と土煙を浴びて息もつかずに躍進する。馬などは白泡をはむで、汗だく／＼になる。だが然しこの活動中は兵士も氣が張つて居るので容易に斃れないが、一旦演習を終つて集合する而して講評を聞き或は休憩する時になると、バタ／＼つゞ一度に斃れるものが幾人も出來ると云ふのが常である。若し鍛錬されてゐない普通の人が斯樣な運動をしなければならぬことになれば恐らく悉く斃れて仕舞ふに相違ない。それに軍人は平素から成るべく水を飲まない習慣をつけて居るが、彼の水筒に一杯の水で以て一日働く、それも必ず煮沸した水である。斯樣な軍規の下に在るのであるから、この極暑の際に日射病に罹るもの丶あるのは止むを得ぬ次第であります。

これは兵隊さんに就ての話でありますが、普通の人

が日射病に罹らぬやうにするのには、先づ炎天に外出するには必ず帽子を被ぶる、衣服でも傘でも成るべく白色或は白色に近い色で日光を吸收せず之を反射するものを選ぶ。若し田舎道などを遠く歩くときには帽子の間に蓮の葉、桐の葉又は桑の葉などを入れて被ぶれば妙である。次に飲料に缺乏せぬやうにすることが何よりも必要である。時々清涼の水を飲むことが大切である、それ故に清潔な安全な水を得難いと思ふやうな場合には豫め水筒に水を携へて行くやうにしなければなりません。水さへ十分であれば日射病に罹ることは先づ無いのであります。一體日射病と云ふのは熱帶地方で非常な熱を外から受けて起るもので、我邦あたりで云ふ日射病と云ふのは實は外の暑さと、體內の熱の放散が不十分な爲に體溫が鬱滯して起る所の中熱症と云ふべきものであります。

尚ほこの中熱症或は日射病に罹り易い誘因とも云ふべきものは夜深し、酒の飲過ぎである。その他暫く勞働を休むで居つたとか、身體に脂肪が多くなつて居るとか又は呼吸器病に罹つて居ると云ふやうなことは何れも日射病に罹り易い原因となるものであります。

さて日射病に罹ると如何様になるかと申しますと、先づ非常にのどが渇き、疲勞甚しく、眩暈がし、胸が苦しくなり、顔面が赤くなり、遂に氣を喪なつて倒れる。而して體溫が高くなり、脈は速くなり、呼吸は遲くなり、往々痙攣、或は嘔吐し、手當が届かなければこれで呼吸も心臓の働も止まつて仕舞ふのであります。

手當としては先づ前兆があれば樹陰のやうな涼しい處に移して冷たい水を澤山飲ませ、衣服を脫がせて頭や胸を冷し、場合に依ては冷水の灌腸を行ふ。それから又興奮劑を與へて盛に人工呼吸を施し再び血液が能く運動するやうに努めるのであります。

虱の豫防撲滅法

今回の歐洲の大戰爭につきましては醫學上に於ても種々新しい研究が行はれ、特に戰時衞生の方面に於て色々面白い事柄が起つて居りまするが、軍人が戰地に於て虱と云ふ敵に取附かれて苦しむで居ることなども其一つであります。この虱と云ふものは嚙むで皮膚に瘙痒を起し、濕疹其他の皮膚病の原因となるのみならず、種々の皮膚病の傳染を媒介し、特に近頃はこれが發疹窒扶斯などの媒介をすることが分かりましたので、陣中に於ては益々厄介な敵と看做さるゝに至りましたが、扨てこれを殲滅しやうと致しますと、容易なやうでなか〳〵容易でない、英佛軍を物ともせず、露西亞軍に對しても連戰連勝の有様で勝誇つて居る獨逸の兵隊さんも虱軍にいたく惱まされてゐる模樣であります。それで近頃の獨逸の醫學雜誌を見ますると、何れの雜誌にも虱の研究に關する記事が必ず載つて居ります。

我々日本人は元來非常に清潔を尊び、殆ど毎日の如く全身浴を行ひ、衣服の洗濯も屢々行ひますから、虱などの發生することは極めて稀で、常に虱などを衣服や頭に飼つて置くのは乞食又は特別に無精な百姓位のもので、如何かすると錢湯屋などで偶々貰ふて來ることがありますが、甚稀なことであります。所が西洋の方々はなか〳〵そうでない、相當身分の人でも隨分此の異樣の動物を肌身に飼つて置くとのことであります。それですから戰爭でも長びきます場合には猛烈に繁殖するのは別に不思議も無いことであります。日露戰爭の時でも皇軍は虱に攻められて苦しむだなどゝ云ふことは餘り聞きませんでした。然し一旦これに攻められることになりますと實に不快なばかりでなく前述の如く傳染病を媒介される危險がありますから、此際虱退治の方法を西洋人から學んで置くのも決して無益なことではあるまいと思ひます。

軍隊などで多數の人が虱にたかられました時には、

全身浴をして身體の垢を落すと共に被服類は蒸氣消毒法を施す。虱は直きに死にますが、その卵は頗る抵抗力が强い、然し蒸氣消毒にかければ蟲も卵も五分間位で死んで仕舞ふそうであります。それから又硫化炭素を通じた箱の中に衣服を懸けて置けば蟲は忽ち死に卵は二十四時間で殺されるそうであります。硫黄を燃しても效があるそうです。又五%の「クレソール」石鹼溶液でも速に虱は死滅するとのことであります。それから大きな麵麭燒竈の內に衣服を入れて七十度の乾燥熱に逢はせますと蟲も卵も十分間で死滅すると云ふことであります。

以上は軍隊などで大きくやる時の方法でありますが、個人としての虱退治には硫黄が一番良いらしい

硫黄と云ふものは固まつてゐる分には別に臭の無いものですが、これが人の皮膚に著いて分泌物に逢へば徐々に硫化水素を發し、これが虱の嗅覺を刺戟するので驅除の效を奏するものであります。この目的には極細かい粉末になつて居る沈降硫黄を衣服の裏に擦り込むのです、毛織物ならば例へば「シャツ」の前になる處と脊になる處へ匙で二三杯づゝ沈降硫黄をかけて、これを「ブラッシ」で以て能く擦り込むやうに致します。これを一日ほど著て居りますと、硫黄は汗に逢ふて自然に硫化水素となり、これが蟲に働きますから、自ら退散致します。南京蟲、その他昆蟲類もこの方法で嚇かしてやることが出來ます。

この他「ナフタリン」、「エーテル」油等が用ひられますけれども硫黄に較べますと揮發し易くて、多く要り、臭も悪いし、比較的高くつきます。それから見ますと硫黄は最初から臭はなし、一週間も效力が續き、又皮膚を少しも刺戟致しませんから最も良いとのことであります。

尚ほ「ベルガモット」油一〇・〇、三〇%の蒸溜丁幾九〇・〇を混ぜたものを身體や衣服に擦り込むのも宜しい、それから茴香油を他の油に五%乃至一〇%の割合に混ぜたものも良いと申します。これは孰れも香りが好いけれども、香水のやうに屢々用ひなけれ

ばなりませんから稍々高くつきます。

頭などの虱を驅除致しますには、「サリチール」酸二乃至五、「オレーフ」油及び蓖麻子油等分一〇〇、これを髪の間に塗り、繃帶をして置くと宜しいそうですが、虱を確實に殺すのは石油で、石油を十分頭の髪につけ、「フラチル」或は木綿で十二時間頭を包むで置くのであります。石油の臭氣は「オレーフ」油或は「ペリウバルサム」を等分に混ぜれば餘程よくなります。それから「サバチル」醋と云ふものも效がありまして矢張同様に使ひます。斯様に致しまして虱が死絶えましたならば、今度は虱の卵を除かなければなりません、これには毎日飽和曹達溶液、塗擦石鹼、石鹼酒精或は熱い醋で以て毛髪を洗ひ、齒の細かい櫛を用ひて梳き取るのであります。

抄録

流通貨幣の汚染度

醫學士野田泰男述（日本衛生學會雜誌第十一卷第二號）

野田學士は東京市内の劇場、寄席、活動寫眞、電車、飲食店、商舗、郵便局等出入頻繁の場所より壹錢銅貨一〇一個、五錢白銅一〇〇個、五拾錢銀貨一〇一個、壹圓紙幣一〇六個を集め、其他紙幣の一部は日本銀行より選び、この各種流通貨幣の表面に附着し居る細菌の數及びその細菌の種類殊に結核菌、化膿菌に就て精密な檢査を致されましたが、その成績に依りますと、一般に流通貨幣に附着して居る細菌の數は非常に多いものもあり又極めて少ないものもありて、事情によりて甚だ差異あれども平均すれば、紙幣の携帶菌數は毎一平方仙迷、即ち三分三厘平方の内に五百八十七個、これが一番多く次は銅貨の三百七個、白銅の二百六十六個で、銀貨の三十六個が最も少ない。即ち白銅は銀貨の八倍汚染し、銅貨は銀貨の九倍汚染し、紙幣に至ては實に銀貨の十六倍汚染して居ります。

金屬貨幣の内では銀貨の汚染度が最も少なく銅貨が最も甚しく汚染して居る。

金屬貨幣は古い年代のもの、方が一般に新しい年代のものよりも帶菌數が少ない、紙幣は未だ使はぬものは菌數も少ないが使用すれば著しく汚染する。菌の種類は非常に多く、分裂菌、芽生菌、絲狀菌の三大部門に亙りて種々の種類を含み、桿菌にては枯草菌が最大多數で、糞便中の主要菌たる大腸菌も發見されました。病原菌としては綠膿桿菌もあり其他分離された多數多種の葡萄狀菌の中には無論毒性を有する化膿菌も混じつて居るでありませう。結核菌は四百八個の檢査貨幣中には一つも發見せられませんでした。

以上の成績を以て見れば、檢査した貨幣の數は甚だ少數であるから斷じて言ふことは出來ないが、結核菌が流通貨幣に附着してゐる度合は、世人の想像して居るほど多數の結核菌が附着してゐるもので

ないと云ふことは一般國民に對し殊に貨幣の取扱に緣の深い實業家にとつては喜ぶべき事と云はなければなりません。

小兒の頸部の罨法

近藤品一述（實驗醫報第一年第五號）

連想で窒息の事を憶ひ出したから御話をする。私は三田の松山病院に居りますが、或朝近隣の商家から『小兒が危篤だから直ぐ來て下さい』と云ふて來た。往て見ると滿一年の小兒が高度の呼吸困難で顔面四肢「チヤノーセ」を呈し脈搏細數殆んど人事不省の狀態に陷て居る、不取敢樟腦油注射を施し、咽頭を檢するに何等の異狀なく、肺にも呼吸音極めて微弱の他何等の變狀を認めず、氣道の異物嵌入か聲帶の水腫か喉頭「ヂフテリー」か殆んど診斷に苦んだ、見ると頸部に罨法をして居るから取り去つた方が樂であらうと云ふ考へから、上の濕つた布を取り去ると、驚く可し其下に「ハンカチーフ」が繩の樣によれて深く柔かき肉に喰入つて頸部を緊縛して居る、倉皇解き去らうとしても取ることが出來ぬ、鋏を以て漸く目的を遂した。之を取ると急に呼吸が深大となり輕き人工呼吸の補助で恢復し呼吸困難の原因が罨法にあつたと云ふ事が知れて安心しました、兩親から樣子を聞て見ると、小兒が兩三日前から少々咳があるので素人療治で昨日から頸部に罨法を施した、然し直接では冷た過ぎて可愛想であるから下に乾た「ハンカチーフ」を卷き此上から濕布を施した、昨日は何事も無つたが今朝哺乳の際に突然呼吸が苦くなり出しましたと云ふ事である、これから考ふると、比較的緊く卷た「ハンカチーフ」が短い頸上で漸々狹く太くよられて來た上に上の布の濕氣を受け益々太くなりて頸部を緊縛するに至つたものであらう、偶然にも罨法を除去したから良かつたが、早く氣管切開を施そうなどと其儘で病院へでも送つて時を費したならば恐くは其儘で其間に取返しのつかぬ事が出來たらうと慄然といたしました、コウ分つて見れば誠につまらぬ事ながら斯かる偶然の危險もあると云ふ事は御參考にもならうかと存じまして御話を致します。



雜報

○消化器系の傳染病流行時期

昨今市內郡部を通じて疫痢赤痢及腸窒扶斯等消化器系の傳染病蔓りに流行するに就て栗本衞生部長は、

毎年此種の患者は九月が最多で八月は之れに次いで居る試みに大正二年度に於ける此種の患者を月別に表示すれば

月別	腸窒扶斯	赤痢	傳染病患者數	月別	腸窒扶斯	赤痢	傳染病患者數
一月	三九	二	五七	二月	六七	一四	三〇八
三月	八〇	一四	四三七	四月	一三	一四	四三三
五月	一五八	五八	四一〇	六月	一四	六八	三六八

七月	二四六	一二七	五九九
八月	四三五	一五八	六七六
九月	六六一	一八六	八六六
十月	三四九	四四	五四〇
十一月	一八五	二	二七一
十二月	一五一	六	二四

（但ペスト發疹を除く）

此表に依つても如何に目下注意を要すべき期節であるかを知る事が出來る殊に本年は此種の傳染病者非常に多く疫痢赤痢は就中多い様であるが、京橋區月島、深川區古石場町及其附近、日清紡績會社内、南多摩郡堺村等にては腸窒扶斯が漸く流行せんとする傾向がある」と語られたる由、今や最も注意すべきの時期なり。

○東京市民の魚代

昨年中日本橋魚市場に輸入されたる海産の生鮮魚は總量十萬三百九十二噸、此の中約四分の一は市外に輸出さるゝと云へば實際市内にて消費されるものは七萬五千三百噸内外なる可く此の價格は千十六萬五千五百餘圓に達すと云へり、又四日市組魚市場は鹽干魚に限れるが一箇年の輸入高は海送が二萬九千五百四十九噸、汽車便が六千八百五十噸、此輸入總價額は四百四萬八千餘圓に達し鹽、干魚の大部分は濱に遠き關東北地方に輸出され實際市内に消費さるゝは一萬二千八百七十餘噸此の價格百二十萬圓内外なりと。右兩市場の集散より推すときは東京市中に需要される一箇年間の魚類は生鮮魚千十六萬四千八百九十餘圓、鹽干魚百二十萬圓此の合計千百三十六萬四千八百九十餘圓に達するが此の賣上高は魚市場の賣上にて卽ち卸賣なるを以て實際市民に小賣せらるゝ迄には尚六七割高くなる譯にて此外前の計算に入らざる川魚類をも合して通算するときは一箇年には實に總額二千萬圓内外の魚代を支拂ひつゝあり。

○撫佛の監禁

今秋の御大典に就て特に衛生上に細心の注意しつゝある京都府警察本部にては府下に於て、撫佛卽ち賓頭廬尊者の木像ある寺院に對し、傳染病媒介の虞れある故此際其木像に金網を施すか又は秘藏すべき命令を發せり、併し寺院側より觀るときは此尊者は十六羅漢の隨一だが、釋尊在世の頃、佛滅後佛法弘

通のため永久に涅槃を許さゞりしとの故を以て佛家にては其像を內陣以內へ安置する事を得ざる定めにして且つ尊者の本願は普く世人と交はり其希望を滿足させ福壽を與へるとの信仰を得來たれる事情もあり、且つ傳染病豫防の爲めとあれば是れに限らず神社佛閣の軒にある鰐口の紐、鈴の緒、基督新教に於る晚餐の葡萄酒飲み廻し、露國正教徒の誰でもが司祭の十字架及び聖書の表紙に接吻する事なども禁ずべきに只撫佛のみに酷なる禁介は受けられぬとの議論も出たるが、結局議論は御大典終了後に廻して兎も角も其命に從ふ事になれりと、尤も當局者は撫佛に限らず此種のものは追々全國に通じ何等かの方法に依つて有害の虞れなからしめる意向なりと。

○特志の獨逸人

在漢堡支那貿易銀行頭取獨逸人パウル、エーレル氏は今回在橫濱同行支店支配人ヘフチル氏を經て日本赤十字社に金壹千圓を寄贈し來れるが、同氏は去る明治三十七年以來前後十數回に亙りて同社に寄附し、その總額は實に一萬二千五百圓に達する由にて同社に於てはこれに對する表彰方に關し詮議中なるが取敢へず花房社長より深厚なる謝狀を發せりと。

○癩療養所の擴張

東京府以下第一區十縣の癩療養所費豫算會議は。去る十、十一の兩日東京府廳に開會本年は御大禮御擧行に付、同患者の徘徊を防ぐ爲め、現在療養所（收容力四千五十人）以外、更らに五十人乃至七十人の收容所を設置するに決し、前年度豫算六萬圓に對し五千圓を增額する事と爲れり。

廣　告

○入　會

新潟支會

○竹山れつ子紹介

特別會員　鈴木なほ子

○轉　居

●本鄕ヨリ神田區南甲賀町十ヘ　近藤憲子
●宇都宮ヨリ府下巢鴨町大字巢鴨一二九二ヘ　山梨識子
●栃木ヨリ府下瀧ノ川町大字田端一五六旭館ヘ　片岡チカ子
●神奈川ヨリ牛込區北山伏町四ヘ　小川幸子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子	同 長谷川仲子
同 岡田德子	同 高木鐐子
同 山本多穗子	同 三浦敬子
同 松平芳子	
評議員 石川貞子	同 羽田三緒子
同 濱田拾子	同 服部繁子
同 仁禮壽賀子	同 西升子
同 土肥多越子	同 緒方悅子
同 岡山とし子	同 小川孝子
同 男爵夫人 加藤鈴子	同 片山龜子
同 丹波貞子	同 高橋孝子
同 田村きよ子	同 鶴原誠子
同 男爵夫人 南部服子	同 中濱芳子
同 山口貞子	同 子爵夫人 松井正子
同 古市幸子	同 小松いさ子
同 伯爵夫人 阿部篤子	同 天野多喜子
同 岸澄子	同 菊池采子
同 三宅藤子	同 宮本樂子
同 宮下咲子	同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊 定價金貳拾錢 郵稅壹錢
三冊（三ヶ月分） 前金郵稅共 金四拾五錢
十二冊（一ヶ年分） 前金郵稅共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁 六十二行 一行二十三字
壹頁 金 五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ケ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正四年八月十七日印刷
大正四年八月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區根津西須町九番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 田中增藏
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

最良國産の過酸化水素水

オキシフル

「オキシフル」は過酸化水素水に對する本會社の登錄名稱にして百分中純過酸化水素三分（十容量%）を含有し獨得の製法は最後の一滴に至る迄其効力を保有す。

本品は無毒無害の殺菌制臭劑にして（其防腐消毒の効力は約千倍の昇汞水に匹敵す）化膿性創傷又は膿瘍腔洞内洗滌に適し濕性綳帯料として下脚潰瘍腐敗性癌腫、其他の潰瘍に適用せられ、口狹炎、齒齦炎、扁桃腺の膿瘍、上顎竇化膿其他一般口腔炎、口臭等に純品のまゝ或は稀釋して應用せらる。（又本品の有する強大なる漂白作用は夏ハ斑、色素斑等の除去に供用せらる其他本品は齒牙を純潔美白ならしむるに用ゐられ歐米にては一般家庭に本劑を常貯し不時の負傷等に消毒として備ふるもの多し）。

定價　四丐入金五十六錢、一七入金一圓五錢

發賣元　東京室町　三共株式會社

新無刺戟性收斂劑

過酸化亞鉛

三共株式會社製造

本品は水に不溶の白色粉末にして過酸化亞鉛五十%酸化亞鉛五十%より成る。

本品は過酸化水素の消毒性と酸化亞鉛の收斂性とを併用する無刺戟性の收斂劑にして外科、婦人科、及皮膚科、耳科等に應用す即ち火傷、濕疹、酒渣鼻、下脚潰瘍、及膣綿球挿入等の治療に對し卓効あり

處方例

過酸化亞鉛	五〇・〇	過酸化亞鉛	二〇・〇
滑石	二〇〇・〇	ワセリン	一〇〇・〇
右混和撒布料		右混和爲軟膏	

定價　五十瓦入　金一圓二十錢

發賣元　東京室町　三共株式會社

婦人衛生雜誌第三百九號（大正四年八月二十日發行）
明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可「毎月一回二十日發行」